



製品開発における イノベーション

求められる製品づくりを共同作業でよりスピーディーに

2024 年報告書



急務となる迅速なイノベーションとリスクへの覚悟

迅速なイノベーションが喫緊の課題であると感じるビジネスリーダーの割合は 98% にのぼります。最近の調査では、調査対象となった多くのリーダーが、現状では画期的なイノベーションを優先することに不安を感じていると回答しています。競合他社の存在も、革新への一歩を踏み出せない要因となっているようです。

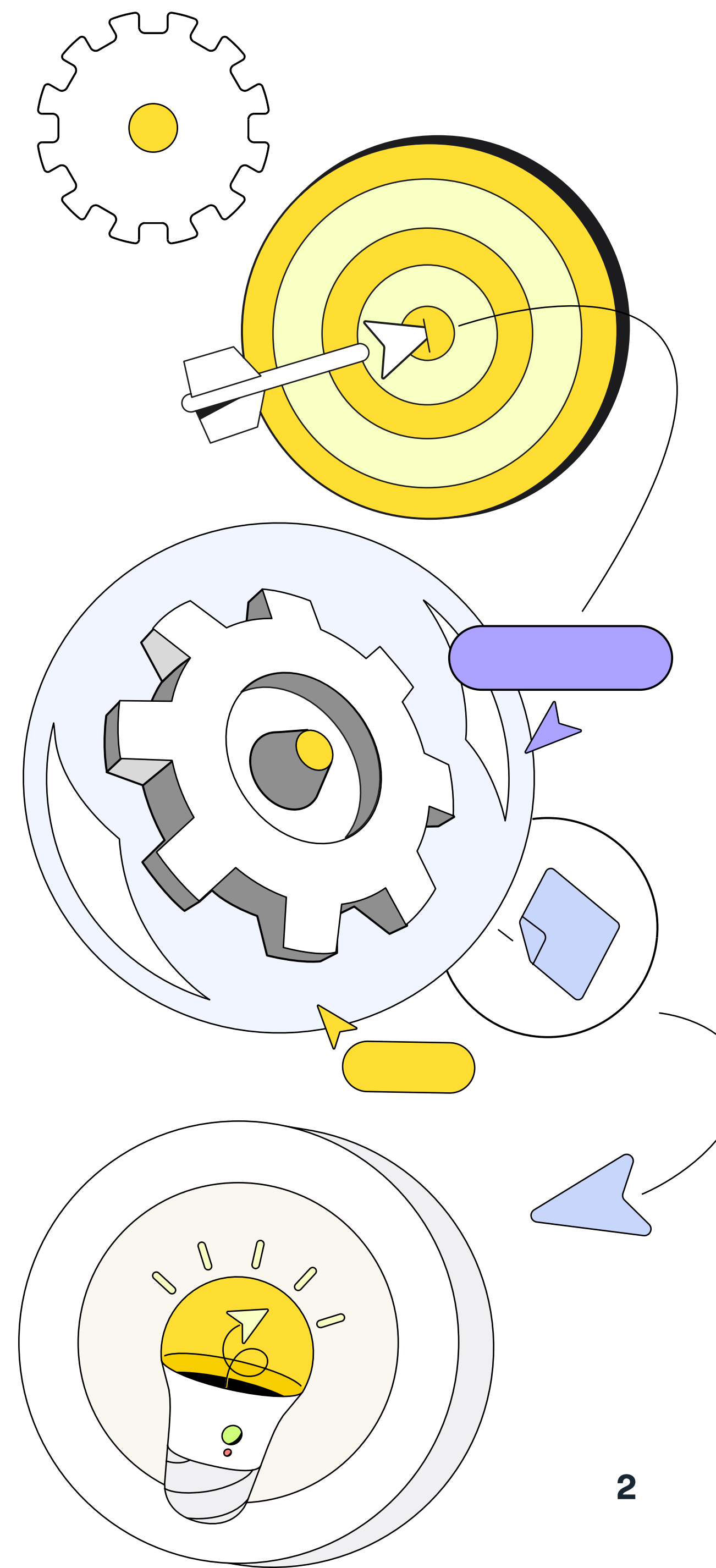
製品開発チームは、最先端技術を取り入れた新製品づくりに取り組みつつ、できるだけ効率良く作業を進めようと努めています。進化するハイブリッドな仕事環境などの新しい働き方、不透明な景況、AI や ML テクノロジーの急速な進歩といった変化の渦中で模索しているのです。(このような目まぐるしい環境の進化は、最新の AI ツールや機能を他社よりも早く世に送り出さなければならないというプレッシャーにもなりました。)

製品開発に挑むリーダーたちは、品質やユーザー体験を損なうことなく市場投入までの時間を短縮する方法、また、リスクを軽減しながらイノベーションに取り組む方法について自問しています。

優れた製品担当チームは何よりもコラボレーション、顧客目線の製品開発、効率性を優先することで、これらの課題に対応しています。

この報告書は、AWS との提携により作成され、製品開発チームの現状をグローバルな視点で分析・把握しています。イノベーションを妨げている障壁とは。今後どのような機会や課題が待ち受けているのか。そして第一線で活躍している製品開発チームの成功の秘訣とは？

この報告書で得た学びを事業に取り入れることで、より良い製品をより短期間で世に送り出すためのお手伝いがありましたら幸いです。購読いただき、ありがとうございます。



はじめに

バーチャル環境での共同作業とスマートツールがもたらす変化

昨今アジャイル製品チームは、新機能やツールのリリース、ユーザー需要に素早く対応しており、多くは分散したチームで作業を進めています。会議室で行われていたプランニングはバーチャル環境での会議に変わり、この変化に伴いチームメンバーも視覚的なコラボレーションツールを使った業務に新たに向き合う必要性が生まれました。経済状況の総じた停滞により、組織内の多くの部門では最小で最大を成すことが求められるようになった流れを受け、すべ

での投資や導入ツールに対して、真の価値を詳しく分析する傾向が生まれました。

今回当社は、製品開発分野全体の現状を把握するために、業界・企業規模に関係なく、100人のさまざまな企業の製品開発担当者を対象にした調査を行いました。また、成功を納めた製品開発チームのリーダーにインタビューし、最近のアンケートやレポートからのデータも収集しました。組織の進歩の障壁となっている課題を明らかにし、来たる最大の商機について見ていきます。

本報告書で取り扱う内容は次のとおりです。

- 2024年に表面化した製品開発における課題
- アジャイル製品開発に関するベストプラクティス
- AIが製品開発の未来に及ぼす影響
- 製品開発チームが利用している各種ツール
- スマートなマッピングやダイアグラム作成をワークフローに取り込む方法
- 統計で見る製品開発プロセスでの成功と失敗の要因



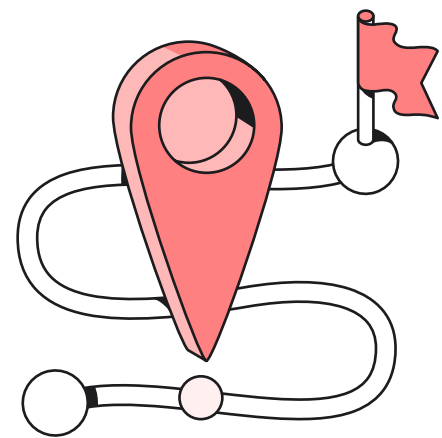


目次

序文	急務となる迅速なイノベーションとリスクへの覚悟	2
はじめに	バーチャル環境での共同作業とスマートツールがもたらす変化	3
主な調査結果	製品部門のための最新データ	5
第1章	製品開発分野における現状	8
第2章	製品開発分野の課題と今後の展望	11
第3章	成功する製品開発チームの仕組み	16
第4章	アジャイル製品開発ツール	20
第5章	マッピングとダイアグラミングでイノベーションを拡大	24
第6章	製品開発における AI 導入と作業の自動化	28
第7章	製品開発分野の未来	31
調査方法の説明	視覚化が製品開発プロセスにもたらすメリットと投資収益	32

最新の調査結果に基づく製品開発 チームリーダーの留意点

プロセス



77%

企業の成長を阻む最大の課題は「非効率的な作業プロセス」だと感じる調査対象となった製品担当者の割合

[OnShape](#)

27%

仕事に必要なデータの場所を正確に把握していることに強く同意する回答者の割合

Miro 製品開発分野調査 (2023 年)

30%

仕事の進め方を選択する際に「高い自律性がある」と感じている製品開発チームメンバーの割合

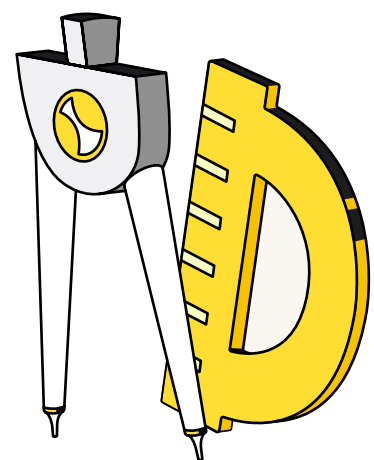
[Airtable](#)

47%

MAU または DAU を評価に使う製品開発チームの割合

[Airtable](#)

ツール



290+

平均 292 のソフトウェアアプリやシステムを使用している製品開発チームの数

[Airtable](#)

35%

製品開発プロセスで AI を使用している製品開発チームの割合

Miro 製品開発分野調査 (2023 年)

95%

予定通りの製品リリースのために必要なツールがあると感じるチームの割合 — ただし大多数はスケジュール通りにリリースされていない現状

[Airtable](#)

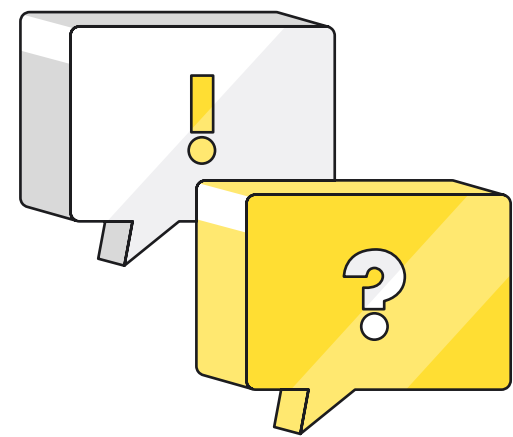
17%

社員と一緒に働きたいと思える人材が社内におらず、リテンションの低下につながると回答した調査対象の製品担当者の割合

[OnShape](#)

主な調査結果

課題



31%

レガシーシステムが自社のイノベーションの妨げになっていると回答するビジネスリーダーの割合.

Miroグローバル イノベーション調査 (2023年)

5人に1人

自分の仕事は社内での可視性が低いと感じている調査対象となった製品担当者の割合

Miro 製品開発分野調査 (2023年)

43%

部門の垣根を越えた協働が組織にとって大きな課題となっているとする製品開発チームの回答者の割合

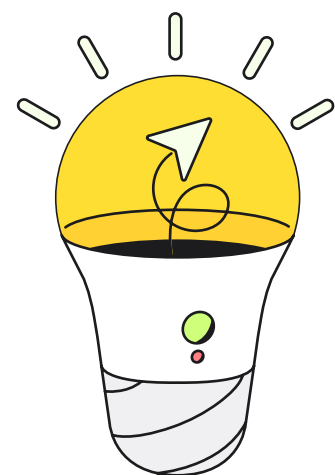
[Airtable](#)

98%

自社における製品イノベーションが急務であると考える調査対象のグローバル ビジネスリーダーの割合

[Miro リスクと報酬に関する調査\(2023年\)](#)

機会



44%

製品開発プロセスに関して自社が先進的な存在であることに強く同意する回答者の割合

Miro 製品開発分野調査 (2023年)

38%

能力を最大限に発揮できる環境が社内で維持されていると強く感じる調査対象となった製品担当者の割合

Miro 製品開発分野調査 (2023年)

80%

組織が最優先すべきは、データと情報のサイロ化を解消することであると回答する意思決定者の割合

[Airtable](#)

90%

フルタイムで入社したくないと考える従業員の割合、88%がハイブリッドまたはリモートワークでの就労を希望

[Miro によるこれからの働き方](#)

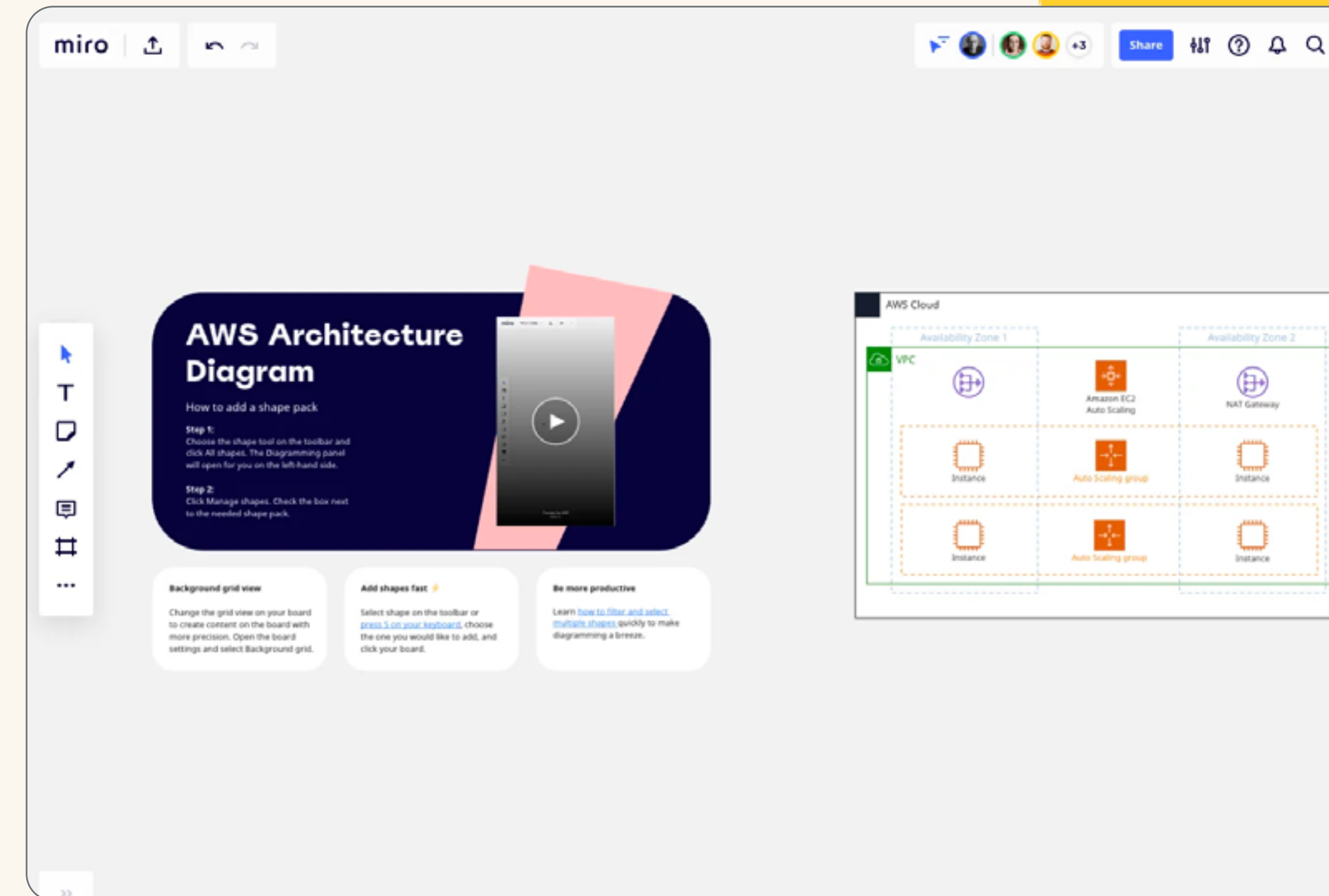


コラボレーションできる開発ツールで イノベーションを加速

Miro は、チームがアイデアを出し合って共同作業を行い、プロジェクトを管理する作業のあり方を改善する、オンラインのビジュアルワークスペースです。また Miro for AWS では、高度なダイアグラム作成ツールと AWS 独自の機能を使って、チームでアーキテクチャーを構築できます。

- ✓ AWS 図形パック
- ✓ リファレンス アーキテクチャ テンプレート
- ✓ AWS Well-Architected ツールのインテグレーション
- ✓ コスト計算アプリ
- ✓ エンタープライズグレードのインフラストラクチャーとセキュリティー

Miro for AWS を試してみる



製品開発分野における現状

製品の市場投入までのプロセスは常に複雑で、コラボレーションが必要とされます。そして今、製品開発作業のほとんどはクラウド上で行われています。視覚的な製品開発とデータを活用したダイアグラムの作成により、プロセスマップ作成が合理化され、より拡張性の高いイノベーションが可能になるのです。

製品開発担当者の **25% が開発の戦略化** に最も多くの時間を費やしていると回答しています。デジタル製品開発が成功するか否かは、物理的な製品の製造と流通までの細かなプロセスと同様に、チーム内での明確なビジョンとロードマップの共有、各タスクの実行責任の分担確認、組織の全体像が把握できる業務の可視化といった要素にいかに取り組むかも関係してきます。

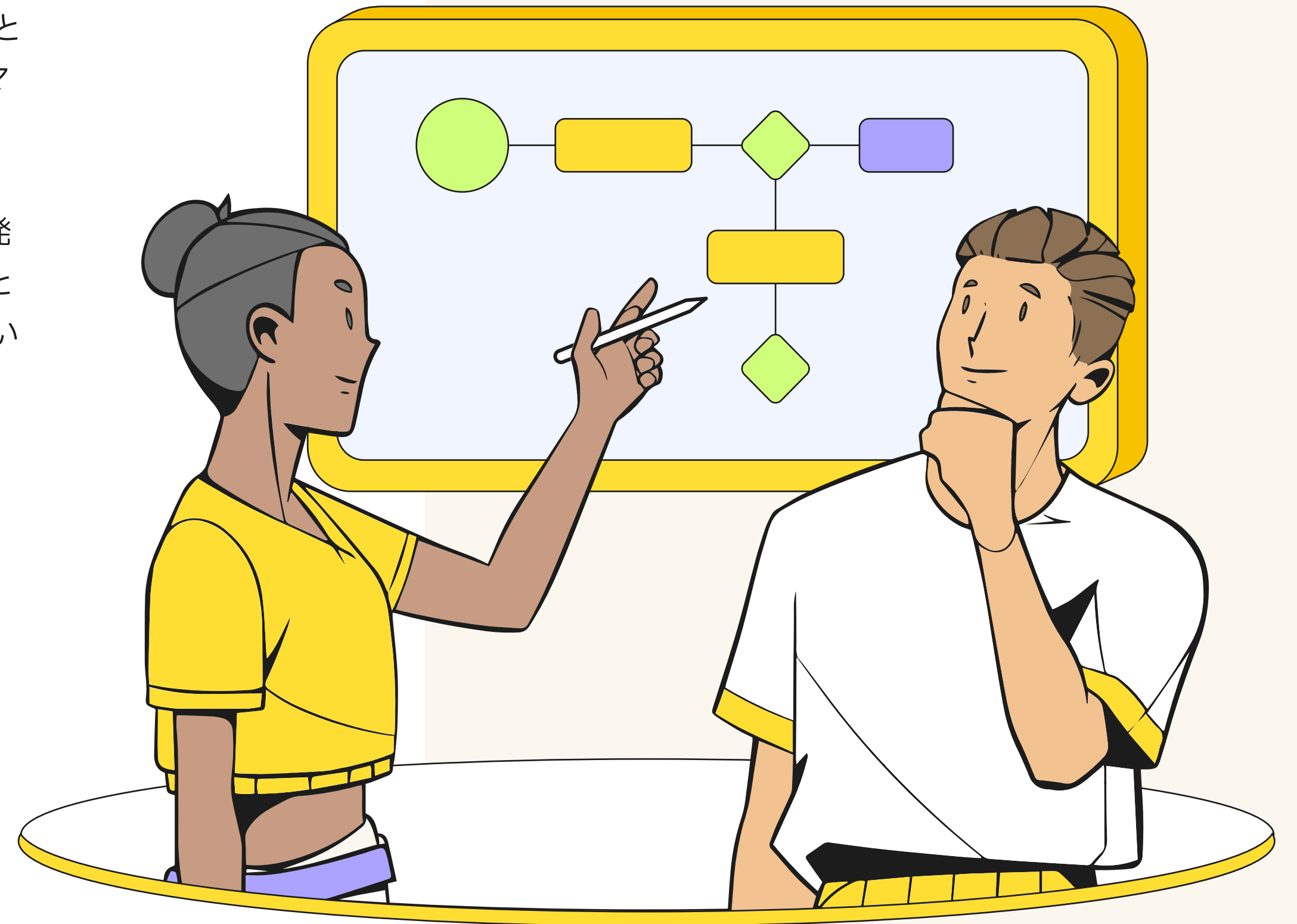
「毎日、毎週、毎月、四半期ごと。製品の出荷頻度が重要なわけではありません。出荷される製品そのものが、事業の改善に結びつくものであるのか、もしくは悪化する要因となるのか、それが問題なのです。」



ヴァルン・パーマー

Miro COO

[Breakthrough Builders Podcast](#) より抜粋



イノベーションと敏しろう性を目指す製品開発チーム

今日のマクロ環境では、**ビジネスリーダーの10人に7人が、企業の成長を維持するための重要な戦略に、イノベーションとアジリティーを挙げています。**背景には、イノベーションを遂行することで、**2.4倍の経済的利益**を生み出すことができるという正当な理由があります。AIのような新技術を取り入れ、顧客からのフィードバックを反映させ、部門横断的な手法で新製品のローンチを目指す製品開発チームは、より持続的な成長を遂げています。

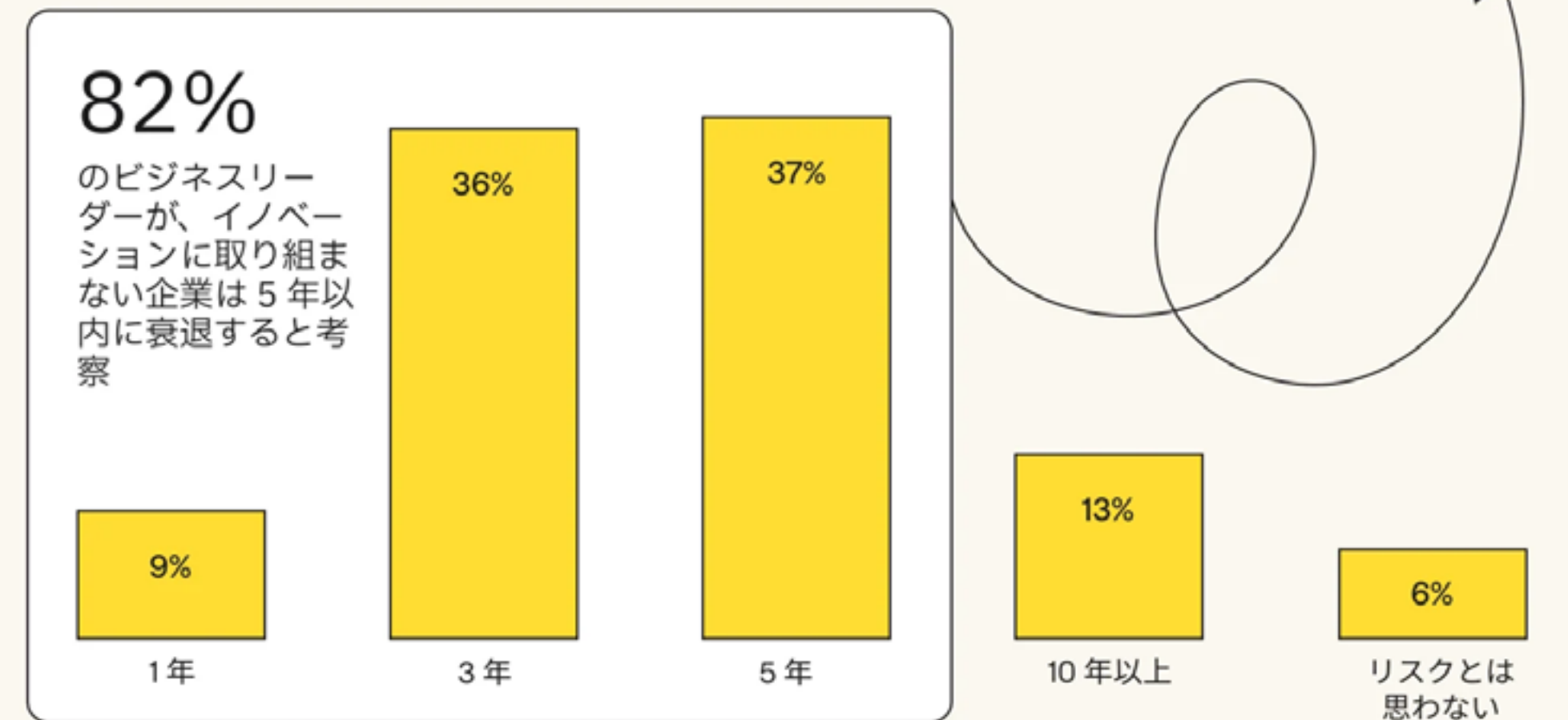


経済の不確実性が高まる中で技術投資をする理由

Miro マーケティングイノベーションインサイト調査のデータに、経済危機の時期にあってもイノベーションに投資した企業は危機のさなかでも10%、収束後には30%、競合他社を上回る好業績をあげたとあります。

生き残りをかけたイノベーション

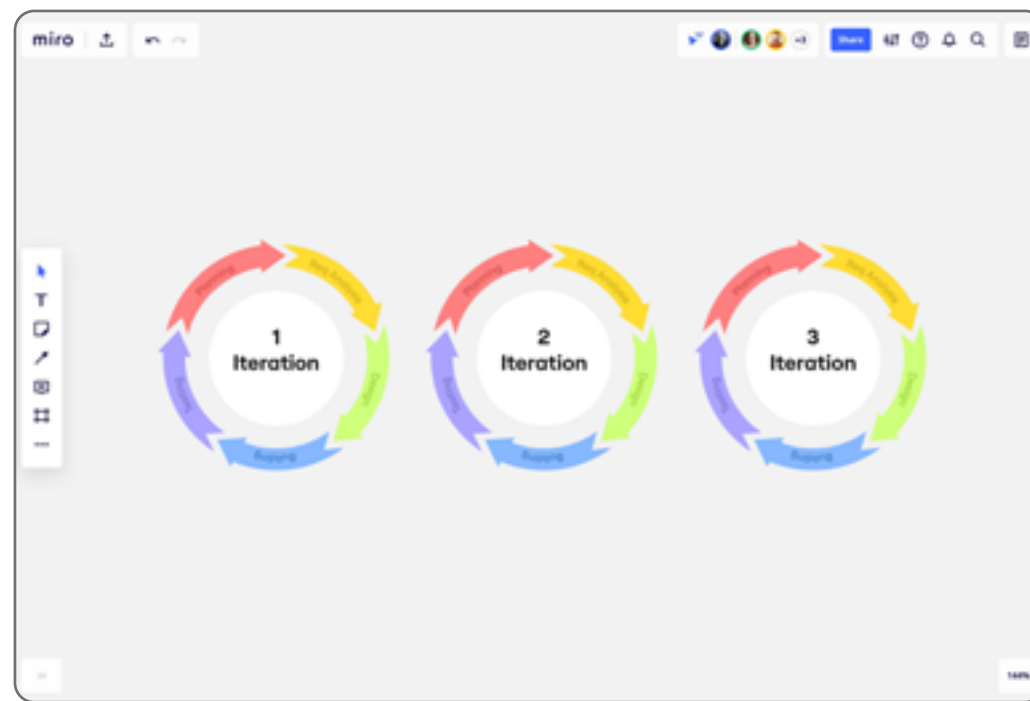
ビジネスリーダーが考える、イノベーションを起こさない場合の企業の存続期間



miro

共同作業によるデジタル製品開発戦略

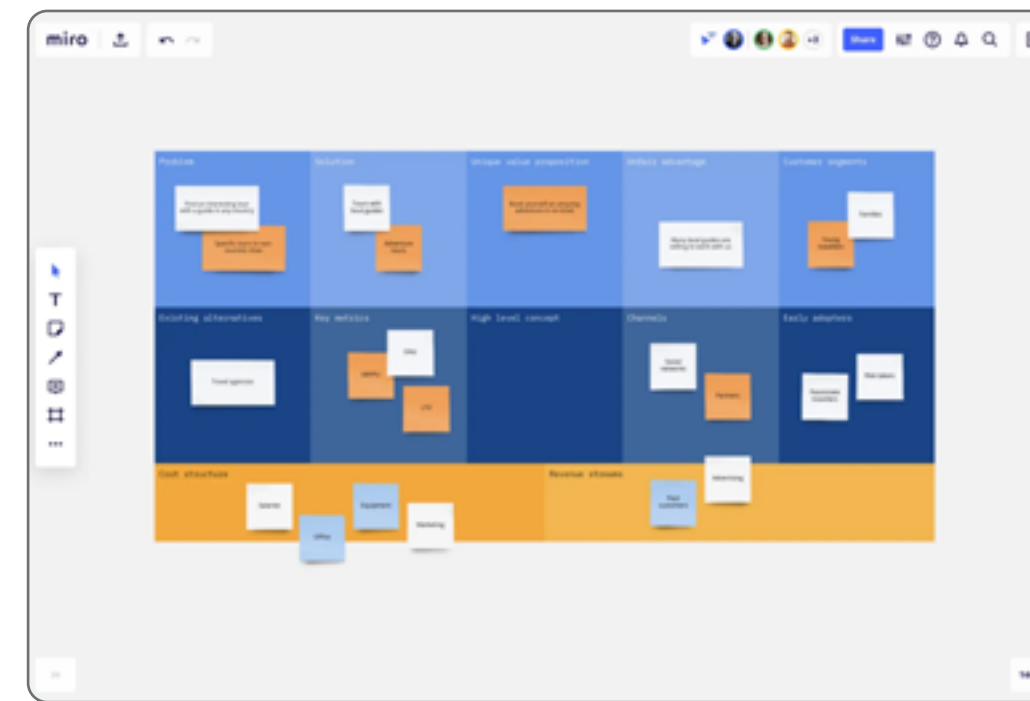
製品開発チームがサイロ化している状態では、新しいデジタル製品の構築と市場投入の実現は困難です。デジタル製品開発において最も一般的な4つの手法では、技術系以外の関係者とも簡単に共有できるビジュアルワークスペースで、製品リリースまで同一のビジョンを分かち合う連携の大切さが、おわかりいただけるかと思います。



アジャイル開発手法

アジャイル開発手法では、製品開発プロセスをスプリントに分割し、チームでタスクと依存関係を計画、製品を継続的に改善します。

Miro のアジャイル ロードマップ テンプレート



リーン開発手法

リーン開発手法は、ソフトウェア開発プロセスの無駄なステップを省き、顧客への価値提供にフォーカスする手法です。

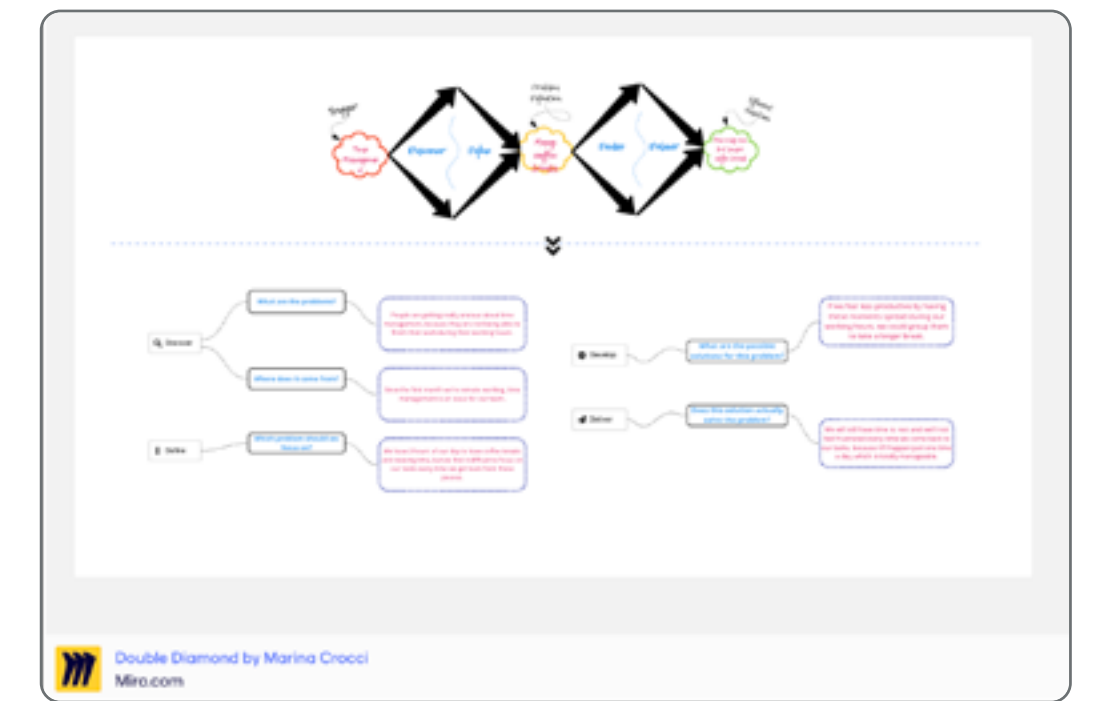
Miro のリーンキャンバス テンプレート



Obeya (大部屋)

日本語の「大きな部屋」にちなんで名付けられた「大部屋」モデルは、複雑な問題を解決するために、多種多様な関係者を集結させるための包括的な組織モデルです。

Miro の大部屋テンプレート



ダブルダイヤモンドのデザイン思考

その形状にちなんで名付けられたダブルダイヤモンド手法は、製品開発の基盤として問題解決に焦点を当てます。

Miro のダブルダイヤモンド テンプレート

製品開発分野の課題と今後の展望

製品開発プロセスに関して自社が先進的であると確信をもって答えたのは、回答者の半数以下 (44%) でした。多くの人が、自分の会社は過去のやり方にとらわれていると感じているようです。これは、コラボレーション文化が確立していないことや、透明性の欠如が原因だと言えるでしょう。ビジネスリーダーの 31% が、会社の製品とサービスにおけるイノベーションを阻んでいる主な原因はテクノロジーにあると回答しています。

また、ビジネスリーダーの 40% が従来型のテクノロジーが創造性を阻害し、生産性を妨げていると考えています。さらに、イノベーションの進化の障壁となっているのは、時代遅れのハイブリッドワークテクノロジーであるとも指摘しています。

製品開発者が今日抱えている主な課題と、それらに対処する際に役立つソリューションをいくつかご紹介します。

コラボレーション

1. 課題:

コラボレーションによる構築とイノベーション

製品開発、設計、エンジニアリングすべてをまとめて、その中で意思決定を行い目標達成を試みるやり方は、成長途上の企業にとって大きな問題です。オンラインでのコラボレーション作業に不向きな従来のツールを使用している分散型のチームにとっては、特に困難だといえるでしょう。

解決方法:

高度なダイアグラム作成ツールとビジュアルワークスペース

Miro for AWS のようなビジュアルワークスペースでは、全体像を把握しながら背景情報を共有し、より良い意思決定を促すスペースを提供します。マップやダイアグラム作成ツールを使えば、複雑なシステムを明確に示すことが可能になり、その結果、チーム全体でアジャイルな意思決定を行うことができます。



透明性

2 課題: 製品ライフサイクルの透明性

最近公開された製品インサイトに関する報告によると、目的と目標、進捗状況、プロジェクトの納期、KPI、顧客フィードバックや製品レビュー、進行中のプロジェクト、優先順位の決定など、製品ライフサイクルのすべてを詳細まで可視化できているのは、製品開発チームのわずか約半数にすぎません。

解決方法: ロードマップとタイムラインを唯一の情報源で共有

G2 で企業向けの戦略 & イノベーション ロードマップ作成ツール No. 1 と評価された Miro のようなプラットフォームを使うことで、共同作業や拡張可能な 1 つの信頼できる情報源を共有し、組織全体の事業の可視性を高めることができます。

データプライバシー

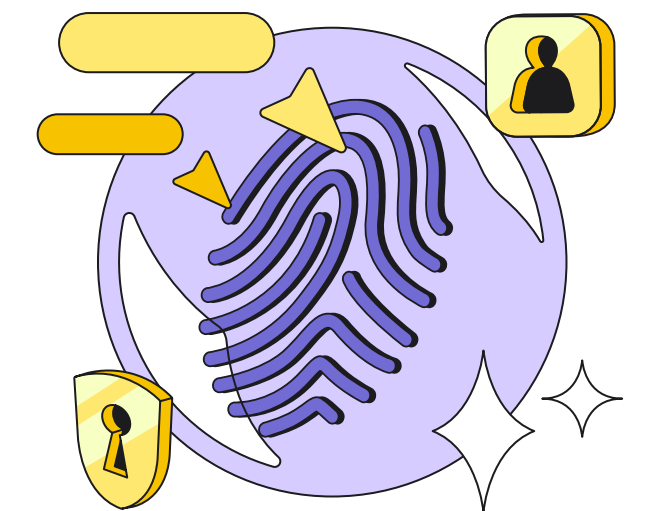
3. 課題: データセキュリティとプライバシーの維持

製品開発部門の課題は、安全性を維持しつつ、必要に応じて他部門や関係者と情報を共有できるようなプライベートな作業スペースを確保することです。開発者は常に、機密情報と顧客データをしっかりと保護できる、安全でセキュアなワークスペースを求めているのです。

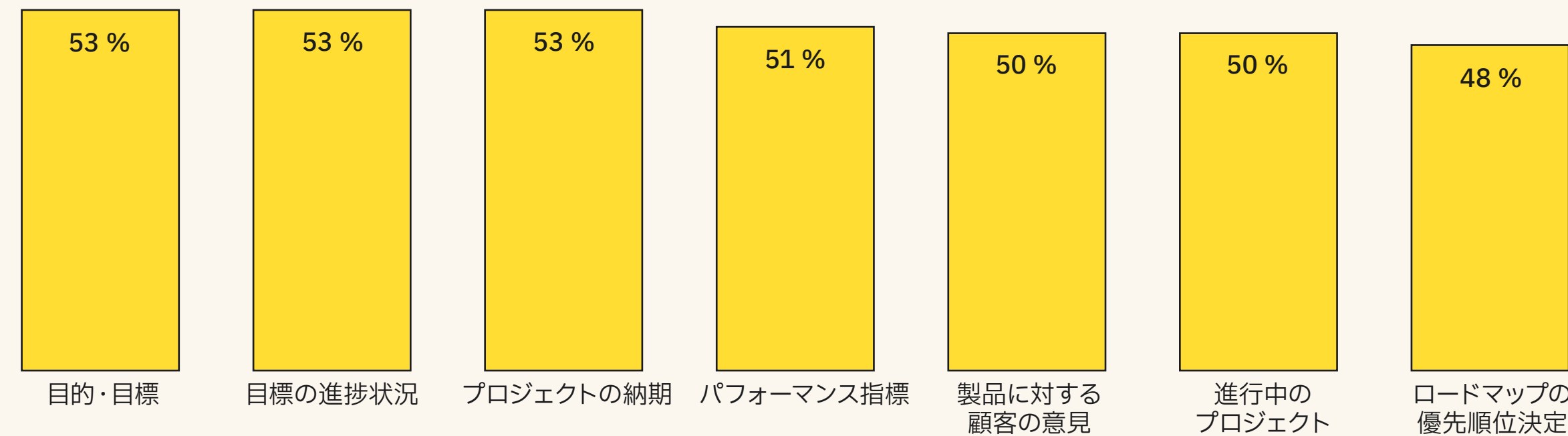
解決方法: 開発プロセス全般を管理できる信頼性の高いツール

Miro を導入している主な事業領域は、使用されるソフトウェアの信頼性が厳しく問われる開発およびエンジニアリング、IT 部門です。2022 年の IDC 調査では、「特に IT 部門でデータセキュリティを最重要と考えている。将来の大切なプロジェクトやロードマップを計画する際に、そのデータに部外者が誰もアクセスできない安全な環境を確保することが重要」と Miro 利用者が回答しています。

Miro は AWS AppFabric とインテグレーションされており、複数の SaaS アプリと連携が可能です。これでアプリの安全性を高め、ツール間で共有される様々な機密情報を保護することができ、複雑なコーディングのスキルも不要です。



製品ライフサイクルの可視性が高い項目



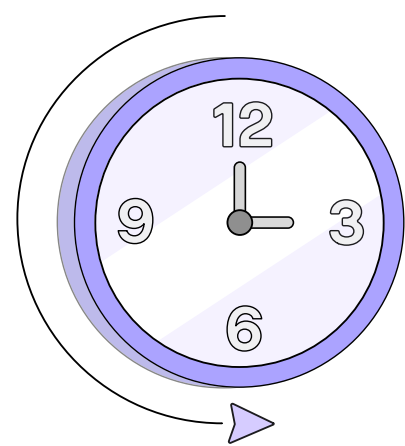
Airtable 製品インサイトに関する報告



4. 課題:

必要なデータとプロジェクトリソースの検索

作業中に資料が必要なときに、そのデータの場所を正確に把握しているとする回答者は、わずか 27% でした。複数のプラットフォーム、データベース、一致しない情報があふれるリソースを探し回ると、膨大な時間の無駄になることは必至です。また、仕事の進め方の選択において「高い自律性」が確保されていると感じている製品部門の社員は、わずか 30% でした。これでは社員の創造性や仕事の質が低下してしまう恐れがあります。



1～3 時間

システムに統一性が無い、複雑すぎる、整理されていないなどの理由で、製品担当者の 25% が必要なデータの検索に毎日どれだけの時間を費やしているのでしょうか。

解決方法:

検索可能な共有ナレッジハブ

明快な文書管理とわかりやすく整理された資料は、製品部門の拡大に欠かせないものです。部門横断的なチームにより製品の共同開発が進み、多くの組織が新しいチームを構築しつつあります。またグローバルな事業展開に伴い、データ元を参照でき、検索機能が組み込まれた共有ナレッジハブを確立する必要性が出てきました。このようなリソースハブを設けることで、最新の情報に基づいて正確な意思決定を行うことができます。

5. 課題:

新しい製品や機能の予定通りのリリース

調査対象の製品担当者のうち、「予定したタイムラインに基づいて新機能をローンチするのは難しいことではない」と確信している回答者は、全体のわずか 24% に過ぎません。これは、適切なツールを使っているからではなく、他の組織的な問題による遅延が影響していると考えられます。95% のチームが**予定通りに製品をリリースするために必要なツールが備わっている**と感じてはいるものの、実際大多数は、依然としてスケジュール通りに市場投入できていません。

解決方法:

アジャイルプロジェクト管理 ベストプラクティスの踏襲

アジャイル開発手法は、大局のビジネス目標を優先しつつ、革新的なソリューションを用いて変化に迅速に対応する際に役立ちます。

イテレーション手法を取り入れたアジャイルの考え方:

- 無駄なやり取りを省く
- 関係者と不必要な議論をしない
- 目的や進行役が不在の時間を浪費するだけの会議を行わない
- 顧客満足度を 30% 高める
- 従業員のエンゲージメントと主幹業務のプロセスを 30% 向上させる
- 意思決定を 5~10 倍加速させる



社内での可視性

6. 課題:

サイロ化、社内での可視性の欠如、ツールの断片化

部門横断的なチームに共通の文化を浸透させるのは拡大する企業にとって大変困難です。

調査対象の製品担当者の 5 人に 1 人が、自分の仕事が社内で十分に認知されていないと答えています。 Miro 製品開発分野調査 (2023 年)

能力を最大限に発揮できるよう社内の他部門から支援されていると強く感じている製品部門の社員は、わずか 38% です。 Miro 製品開発分野調査 (2023 年)

自社でどんな製品がリリースしているのか把握していると確信をもって言える社員は、回答者のうちわずか 40% であり、マクロレベルでも類似した傾向が見られます。製品部門の 58% が会社の製品開発に対するビジョンを深くは理解していないと回答しています。

また、製品開発チームの回答者の半数近くが、チームや部門を超えて協力して作業することが組織にとって大きな課題であると回答しています。

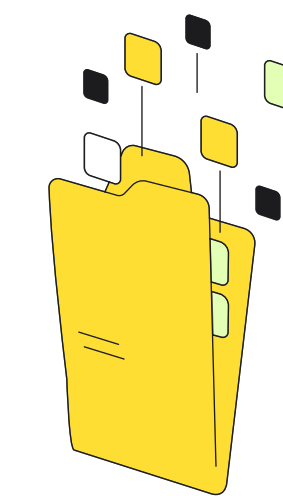
統一されていないツールから得る断片的な情報に基づいて行う意思決定は、不的確かつ時間を要すると報告されています。



解決方法:

統一されたひとつの記録システムをチーム間で共有

可視性は、双方向状態であるべきです。特に情報が自分の仕事に影響する場合において、社員は会社の動きを確認する必要があります。共有できるプロジェクト管理システムとコラボレーションツールを導入し、すべての部門で認識を合わせます。



80%

意思決定者の 80% が、社内のデータと情報の分断を解消することが最優先事項であると報告しています。

7. 課題:

製品レビューと顧客フィードバックの分析

顧客が真に必要とする製品作りを目指す場合、ユーザーからのフィードバックを収集し分析することが極めて重要となります。ところが製品開発チームの77%がこれを最も困難なプロセスだと回答しています。また、このプロセスを公式に文書化しているチームは、わずか39%でした。

解決方法:

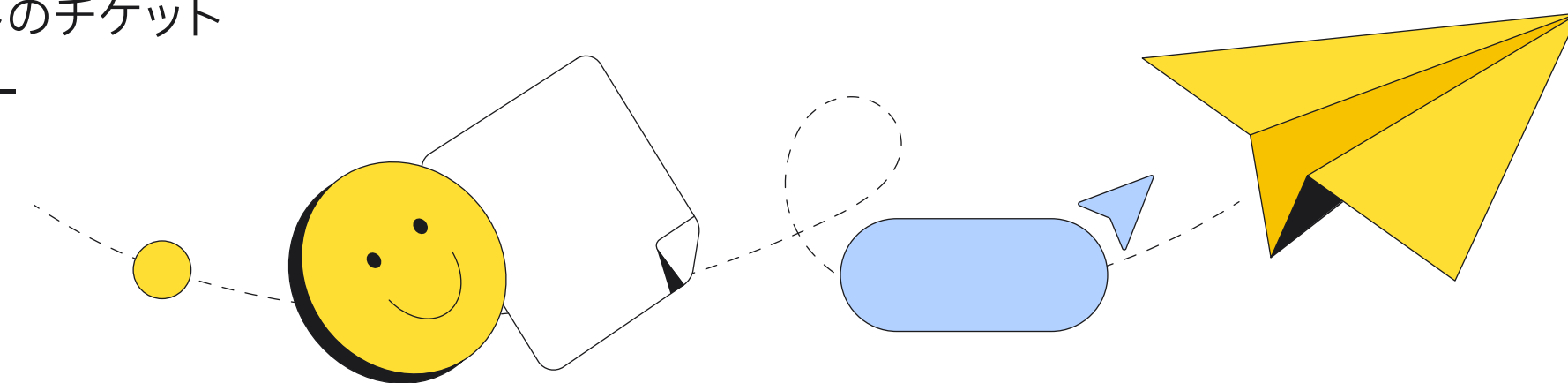
フィードバックプロセスを合理化し顧客対応チーム間で情報共有ハブを作成

すべての顧客フィードバック提供元からのデータを、一か所に集約します。

- 顧客アンケート
- インタビュー
- フォーカスグループ
- ユーザーテスト
- ソーシャルメディアでの聞き込み
- カスタマーサポートのチケット
- 自社製品のレビュー
- 顧客フィードバック

次にフィードバックを分析し、その結果をアクションアイテムにするプロセスを構築します。最後に最も重要なステップとして、この分析結果を他のチームと共有します。

Airbnb 社は、顧客フィードバックによる成長を遂げた良い例だといえるでしょう。Airbnb チームは、顧客のコメントを反映させ検索機能を改善したことで、予約件数を増やすことに成功しました。



8. 課題:

非効率的な製品開発プロセス

調査対象となった製品担当者の77%が、会社の成長を阻む最大の問題は非効率的なプロセスにあると感じていることが、最近の調査で明らかになりました。

解決方法:

実績に基づいた製品開発システム

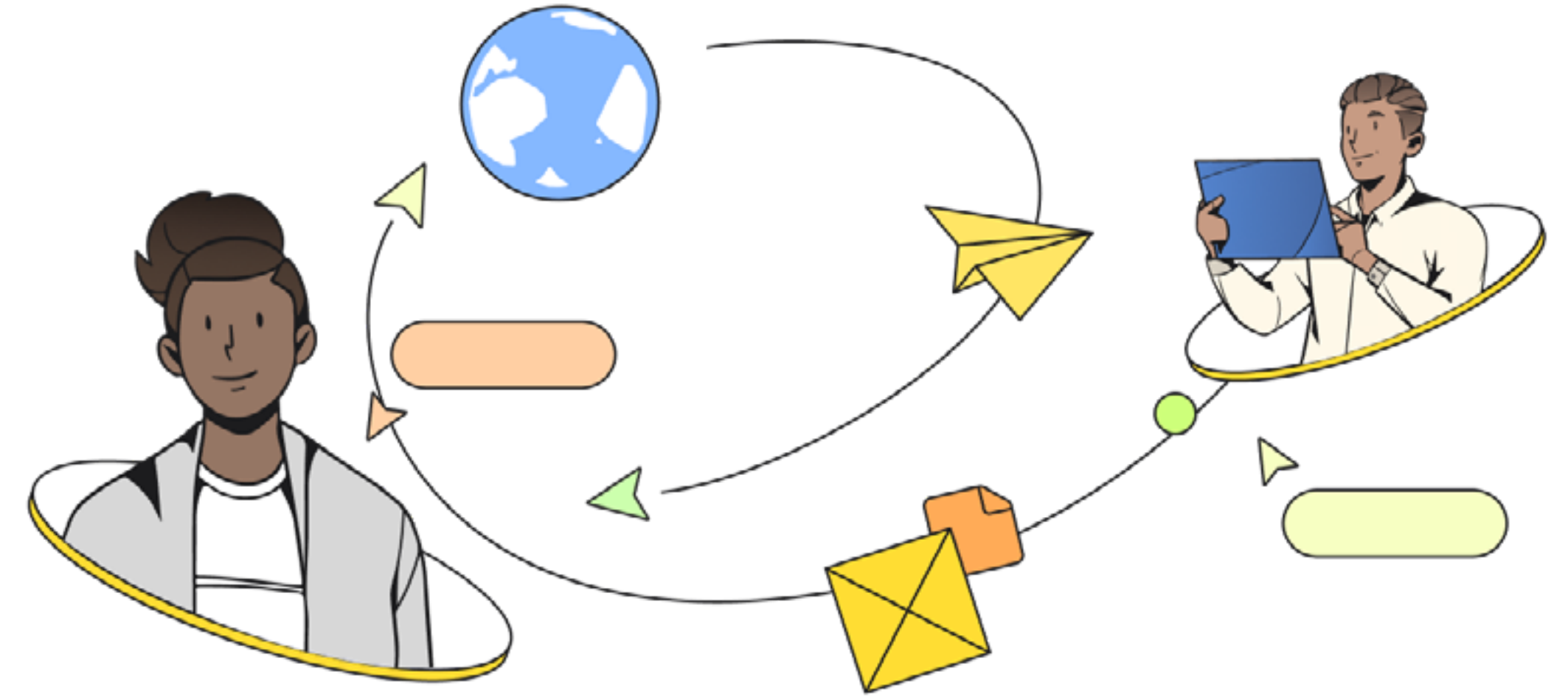
事業の成長過程に応じて仕事のやり方も変わってくるため、スクラムのプランニングにおいては、それぞれ様々な手法を試してみるといいでしょう。ここでは、人気のあるテンプレートを2つご紹介します。

- Flowedoo 氏によるスクラム情報ラジエーターテンプレート
- Foci Solutions のソフトウェア開発者ケンドラ・デゼノスキー氏によるデイリースクラムのチームウォールテンプレート



成功する製品開発 チームの仕組み

製品開発チームには柔軟性と適応性が必要となり、成功を納めるには、顧客中心の思考に切り替えることが重要です。ここでは、高い成果を収める製品部門が実際に採用している、依存関係の管理方法や追跡すべき重要評価指標などの5つのベストプラクティスをご紹介します。



1 明確なプロセスを確立し文書化

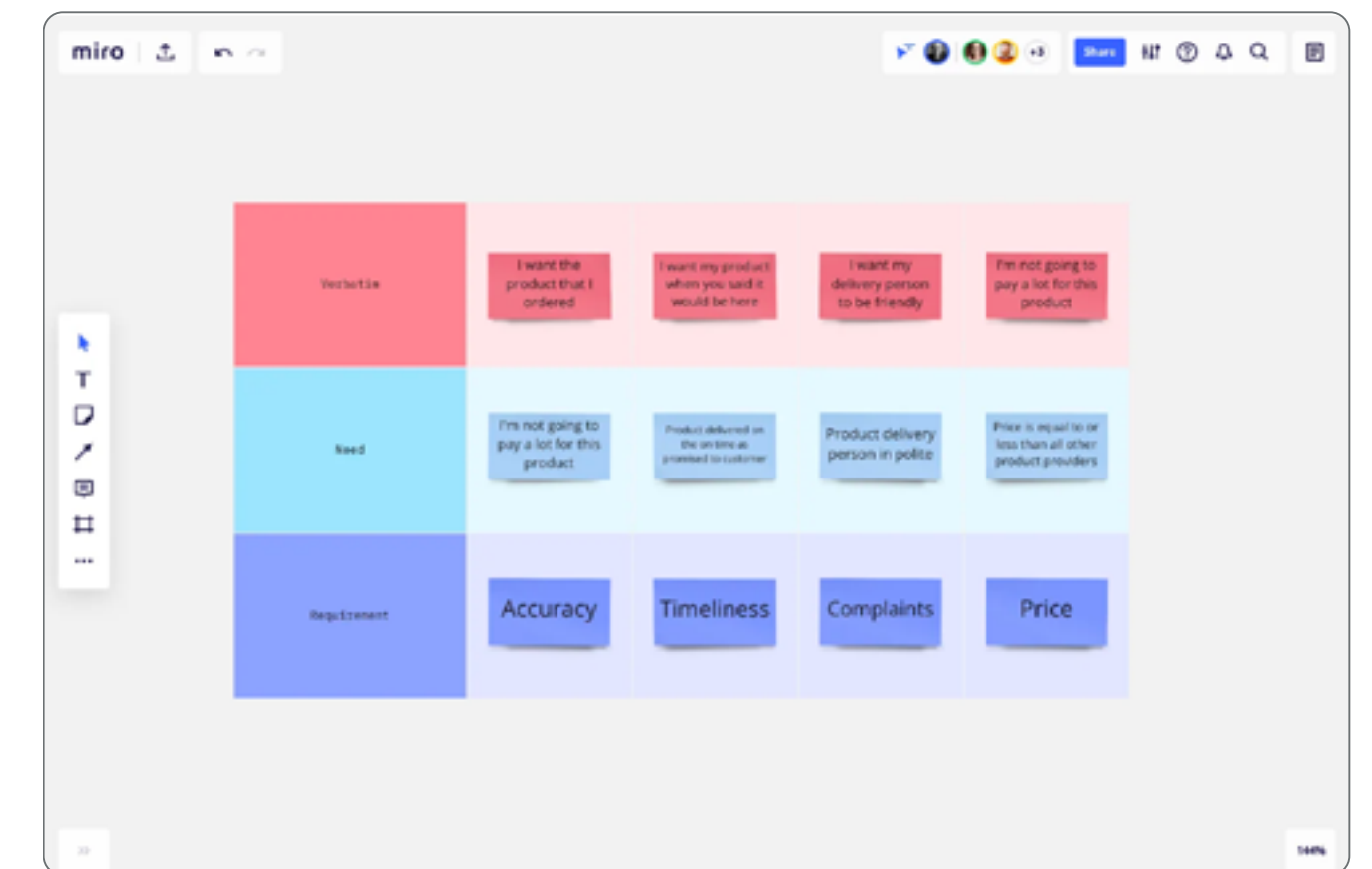
新入社員に対する企業研修は古参社員に任せるだけでなく、組織に関する情報をまとめたライブラリーを構築し、管理するといいでしょ。

Miro のようなプラットフォームを使えば、企業のナレッジベースと製品プランニングに関する情報を同時に管理できるため、すべてのシステムに最新の情報を反映させることが可能になります。

2 顧客やユーザーの声をきく

ユーザーや顧客のフィードバックに耳を傾ける以上に有意義な時間の使い方はないといえます。最近の調査では、49% のチームが、[ユーザー調査の結果がロードマップの優先順位付け](#)や意思決定に「大きく影響する」と回答しています。

アンケートの回答など、大量のユーザーフィードバックを収集し分析することが、パズルを解くための重要なピースとなります。実際に自社製品を使うユーザーとの会話は、生産者側にとって極めて価値のあるものです。製品開発チームの若手メンバーも顧客との会話に同席させれば、自社製品の影響力について理解できる良い機会となるでしょう。



Miro のお客様の声テンプレートでは、ユーザーからのフィードバックを収集して保存し、すべての顧客対応チームメンバーと簡単に共有できます。

3 機能提供で協働 — データに裏打ちされた フレームワークを使用

製品ロードマップや最新機能の提供開始のスケジュールをいつ公表すべきか決定することは、容易ではありません。もちろんこのタイミングは安易に選択すべきでもありません。そんな時、[機能の優先順位付けツール](#)を活用すれば、次の3つの属性に基づき、今後の機能リリースを計画できます。

- 利用頻度/ユーザー数
- 会社の目標/ユーザーの目標
- 報酬/努力

4 透明性を高め分散型環境での コラボレーションを実現

業界をリードする最高のコラボレーションツールを使えば、プロジェクトの進捗状況や各タスクの担当者を、リアルタイムで確認できます。

HP社では、会議実施の前後や会議中に効果的にコラボレーション作業を進めるにあたり、Microsoft Teams、Zoom以上の機能を必要としていました。そこでMiroを試しに使用してみたところ、成果が現れます。

「当社では、よりアジャイルかつオープンマインドになり、反復型プロセス、そして新しいアイデアとイノベーションを育むための専用スペースを、社員に提供したいと考えています。Miroは、このような取り組みをサポートしてくれる最適なツールであると考えます」と、[HP社の学習体験デザイナーであるブライアン・チッコテッリ氏](#)はコメントしています。



5 信頼とサポートの文化を築く

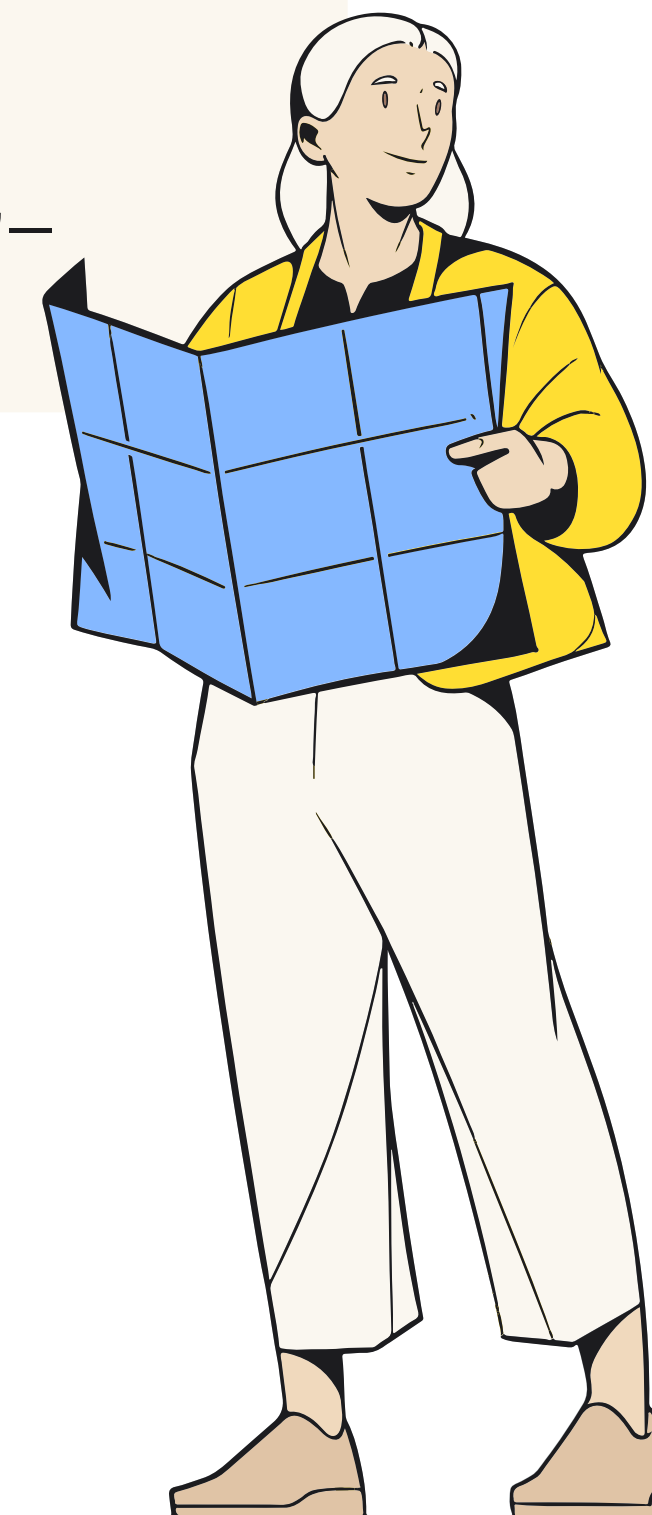
チームカルチャーは、製品部門の成功を左右します。不満のある社員に、継続的に質の高い仕事や、事業を底上げするような製品を生み出すことを求めることはできません。

そのため、協働する文化の醸成が必要となり、以下の点がキーポイントとなります：

- 包括性を念頭に置いたリーダーシップ
- 思いやりを持って建設的なアドバイスを提供する
- 実用的なスキルだけでなく心の知能指数も考慮に入れた人事採用
- チームメンバー同士の対立を煽らない
- 指導支援と成長の機会を提供
- 繁忙期であっても必要であれば直属の部下に休暇を取る機会を与えワークライフバランスを維持

たとえばShopify社では、製品開発チームが信頼関係とコラボレーション文化を促進し、作業の自動化を推奨、役立つリソース（社内サポートチームなど）を提供することで、各プロセスで個々の自主性を尊重し開発者の自己肯定感を高め、[協力的かつ効率的な開発者チームの企業文化](#)の構築に努めています。

社員のエンゲージメントを高め、効果的なコラボレーションを可能にする仕事環境の構築方法については、次のウェビナーをぜひご覧ください
[信頼関係の構築：エンジニアリング・製品・デザインの現場で連携を強化する方法](#)



6 インテグレーションの重要性と管理方法

前述のとおり、一般的に普及しているツールと連携して使うことができない場合は、リリースする製品はユーザーのニーズを満たすことができないでしょう。

「常に Microsoft 社の製品と統合可能な製品作りが求められます。なぜならお客様から連携不可能ならば、Microsoft 社のツールを今まで通り使いますから結構です、と門前払いをくらう可能性が高いからです。Microsoft と直接競合する必要はありません。エンドユーザーやビジネスユーザーのニーズに従い、Microsoft 社製品との統合を進め同等のポジションに自らを位置づける選択がこの場合正しいと言えるでしょう。」



ヴァルン・パーマー

Miro COO

Breakthrough Builders Podcast より抜粋

7 依存関係を可視化

依存関係のマッピングは不可欠ですが、従来の方法とはすっかり様変わりしています。以前はホワイトボード上で線を引いていましたが、Miro のようなバーチャル ホワイトボード プラットフォームを使えば、より効果的なマッピングが可能になります。数か月前の[大部屋計画](#)で使ったホワイトボードの写真を探する必要はありません。



8 製品開発指標を定期的に確認

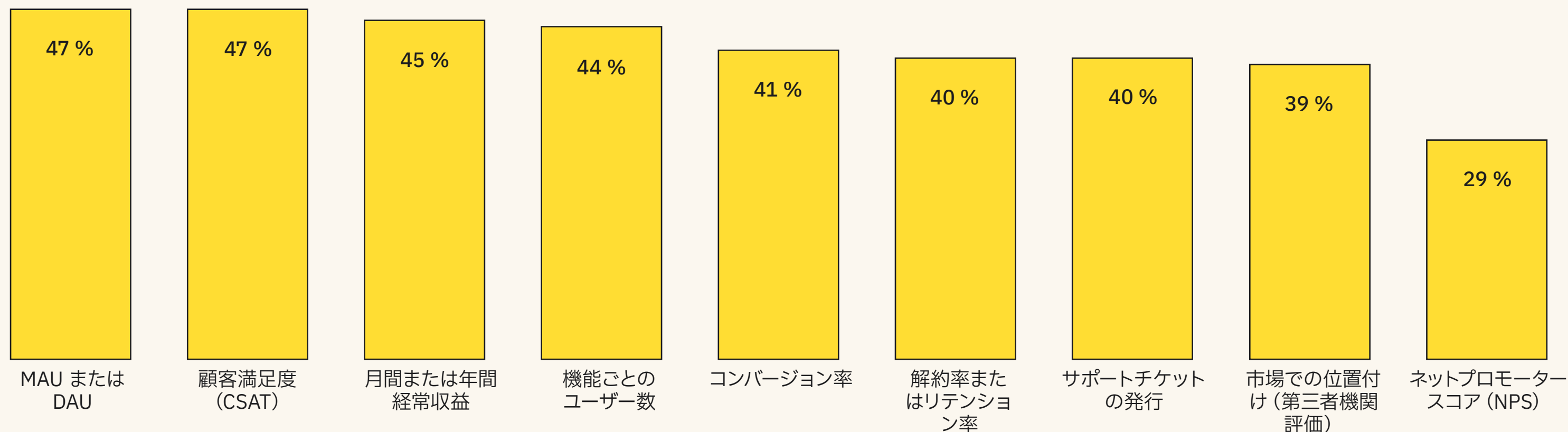
製品戦略が成功したか否かを追跡し整合性を評価する方法は多数ありますが、製品部門の47%がMAUまたはDAUで測定しており、製品部門で最もよく使われるKPIです（顧客満足度とも関連性）。

これは、年次、四半期、月次ベースで追跡できる、最も一般的な製品部門の指標です。

9 顧客リテンションに重点

新規顧客の獲得は収益を維持する点においては必要ではあるものの、製品の魅力を維持し、次の年に今ある契約をつなげることのほうが重要だといえます。

一般的なパフォーマンス指標



出典: [Airtable 2022 年 製品インサイトに関する報告](#)



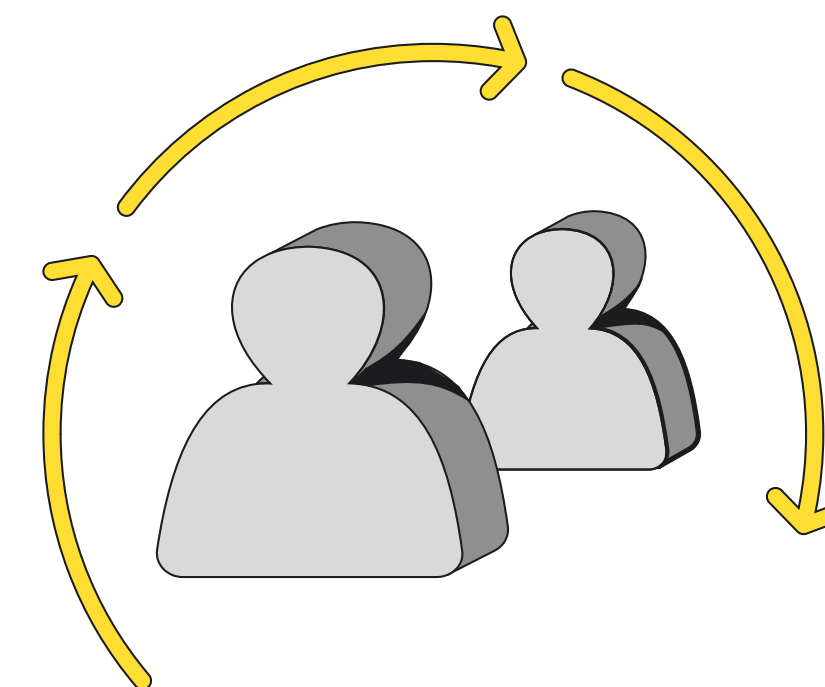
「1年後、2年後、3年後に何をしようとも、基盤がしっかりしていなければ既存のお客様の心をつなぎとめておくことはできません。」



ヴァルン・パーマー

Miro COO

[Breakthrough Builders Podcast](#) より抜粋



アジャイル製品開発ツール

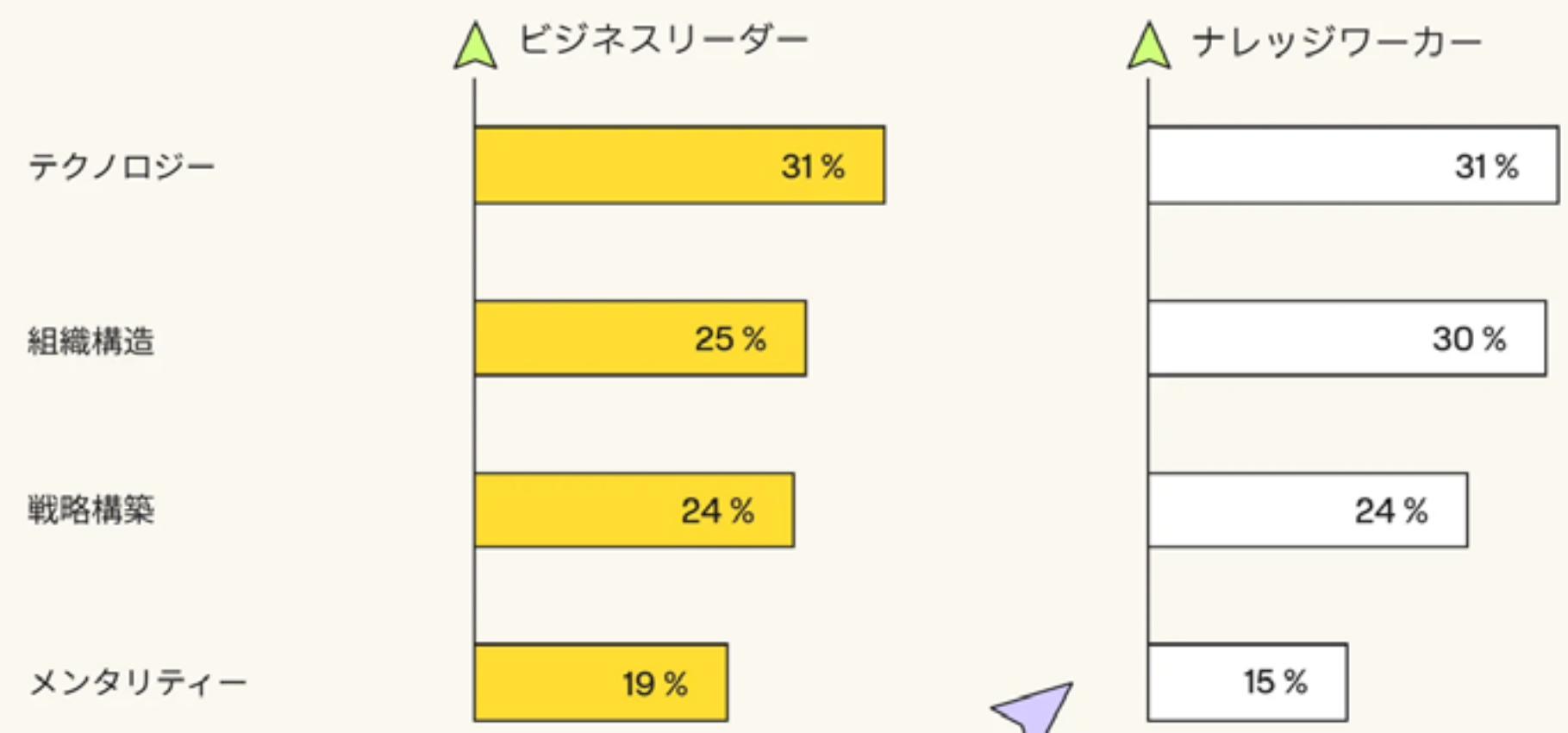
適切な製品開発ツール選びは、作業の効率化と生産性アップにつながる大切な要素ではありますが、社員の満足度を高めるという点においても、実は重要です。実際、製品担当者の17%が、一緒に働きたいと思える人材が社内におらず、これがリテンションの低下につながっていると回答しています。

テクノロジー分野では、企業は新しいツールの導入に躍起になっており、いささか過熱気味の傾向にあります。ところが技術スタックが断片化されているケースが多く、作業の生産性を上げるはずが、異なるツール間の切り替えに時間を取られているのです。また、コラボレーション作業に不向きなツールを導入してしまい、その結果イノベーションの障壁となることもあります。

社員の意欲が高まらない大きな理由は、仕事に必要な情報を見つけることが困難だという事実に起因すると考えられます。大企業の事業プロセスは、データのサイロ化、スプレッドシートやメールといった手作業とデジタルが混在するワークフローによって分断されています。

イノベーションを妨げるものは？

ビジネスリーダーとナレッジワーカーが、自社のイノベーションを阻むビジネス上の最重要課題を共有

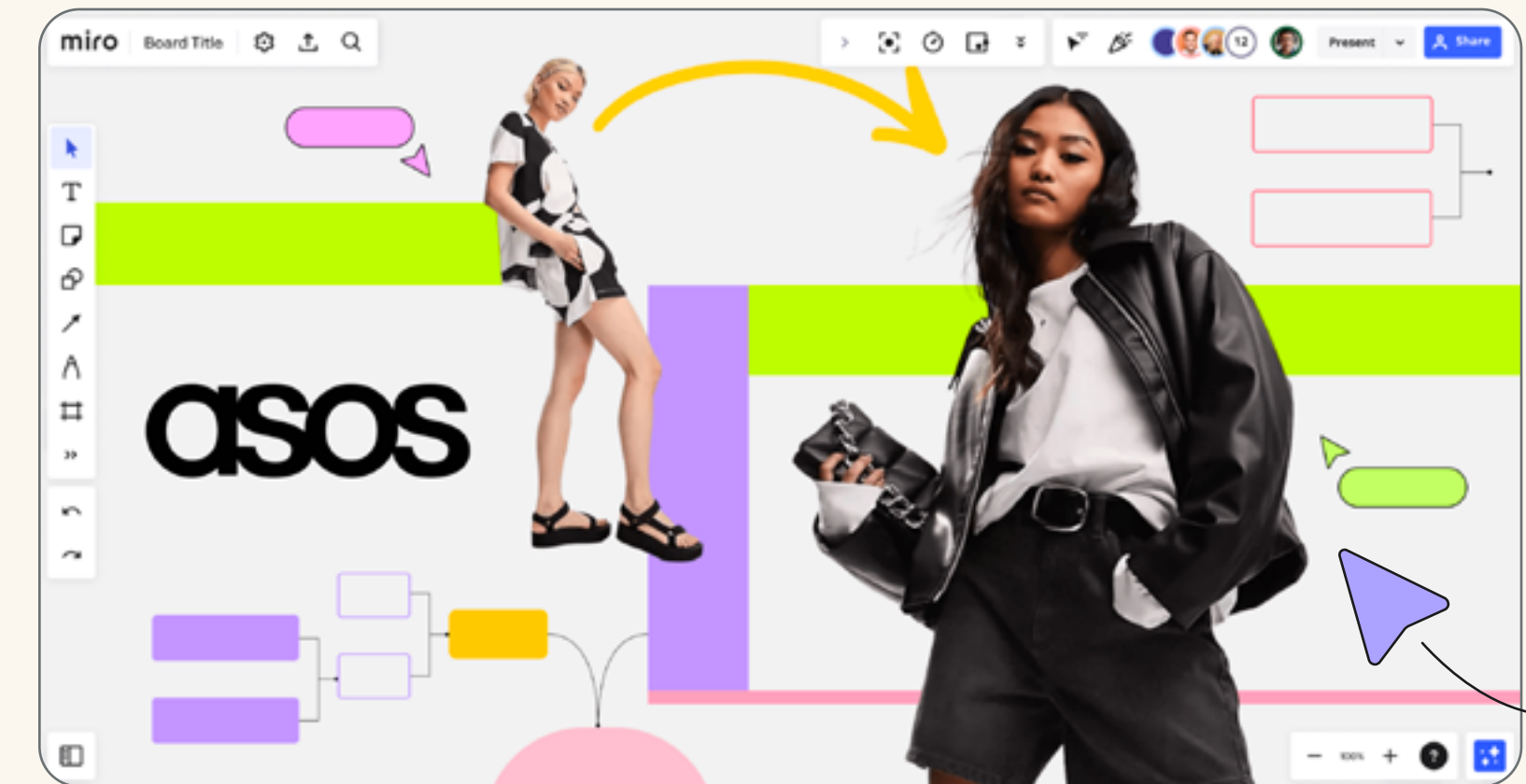


導入事例

Miro を活用し 60 のアジャイルチームを連携、オンラインの買い物体験を向上する ASOS

ASOS のウェブサイトでは、お客様が求めるファッションを提供する、買い物客が求める楽しいユーザー体験を提供するという、2 つの目的に取り組む必要がありました。

しかし ASOS 社内で商品の計画や実行に際し、ばらばらのツールを使用していたため、整合性が取れず作業も非効率になり、プラットフォーム間での情報同期や、本来なら不要なバックログの管理作業に時間を費すなど、無駄の多い場面が見られました。



Miro は、60 を超えるアジャイルチームを 1 つのオンライン ワークスペースにまとめ、作業の優先順位を共有し、依存関係を視覚化して、「セメスタープラン」を実施するための統合プランニングをサポートしました。

ASOS は、Miro を使用してコラボレーター同士がリアルタイムで同時に作業するライブ計画セッションを促進し、プランニング周期中に非同期作業を文書化する「ホームベース」としました。

現在、スプリントやプロジェクトの最中にも Miro に戻り進捗状況を記録し、完了した作業の内容を更新、依存関係を管理して、関係者全員のプロジェクトへの認識を統一しています。

ASOS 製品開発チームが Miro を使って協働で新製品を市場投入するまでの詳細は [こちら](#)。

複数ツールを使わずに Miro にチーム作業を集約した際の成果

71%

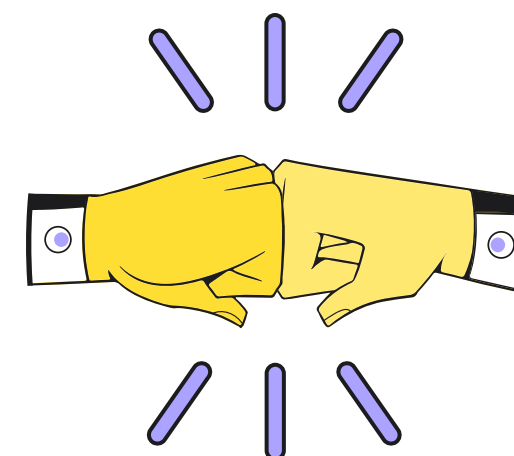
会議の
効率アップ

約 50%

製品のプランニング
に費やす時間を削減

3.75 時間

作業時間を短縮 (Miro
ユーザー / 週あたり)



製品開発チームが使用するツール

製品開発チームに最も人気のあるツールは、Microsoft Teams、JIRA、Slack、Atlassian です。そして BCG が選ぶ「世界で最も革新的な企業 50 社」の 60%、そして Fortune 100 社の 99% が、Miro を使用しています。

製品開発の各種段階で選択されるツールとは？

アイデア出し

Miro、ProductPlan、Slack、Teams、Jira、Pivotal Tracker、Asana、Aha!

開発

JIRA、Code::Blocks、Microsoft VisualStudio、AWS Cloud9、IntelliJ IDEA

検証

SurveyMonkey、Typeform、Pollfish、ProductPlan

リリース

Miro、Split.io、LaunchDarkly

プロトタイプ作成

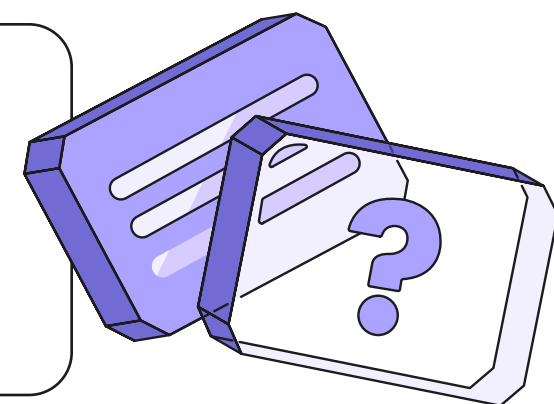
Miro、Figma、Google Drive

改善

Pendo、MixPanel、Amplitude、FullStory、Hotjar

マーケティング

Miro、Visio、HubSpot、Aha!、ソーシャルメディア



クラウドアーキテクトによる Miro の活用方法

ビジュアル コラボレーション

- ダイアグラム作成
- スキーマ、プロセスフローの可視化、ロジックモデル
- クラウドアーキテクチャーの設計
- 異なるチーム間のコミュニケーション
- ワークショップ

文書化

- システム内のデータの流れ
- 調査文書
- データおよび共有リソースハブ
- 資金調達への依頼
- 人事考課
- 各種要件

プレゼンテーション

- プロジェクト実績報告
- 試験報告
- 概念実証報告

プロジェクト管理

- スプリント管理
- スプリントふりかえり

プロダクトマネージャーによる Miro の活用方法

ビジュアル コラボレーション

- プロセス チャート
- ローファイ モックアップ
- ワイヤフレーム
- ユーザーフロー

文書化

- 製品要件ドキュメント (PRD)
- ワークバック ドキュメント
- リリースノート

プレゼンテーション

- スプリント レビュー報告
- 製品戦略書

プロジェクト管理

- 四半期プラン
- ロードマップの作成
- スプリントプランニング
- 拡張製品プランニング
- スプリントふりかえり

コンサルタントとの連携

- バックログのリスト
- ユーザー導入事例
- ムードボード
- ステータス報告

関連資料:

[アジャイル専門家によるチーム作業に不可欠な 15 のテンプレート](#)



製品ツール使用時のヒント

Miro プランナーを使うと、Jira からエピック、ストーリー、タスクをすばやく簡単にインポートでき、コピー & ペーストの手間は不要です。Miro のようなプラットフォームを使えば、企業のナレッジベースと製品プランニングに関する情報を同時に管理できます。また、Miro は Asana、Jira、ADO とも連携できるため、すべてのシステムに、自動的に最新の情報を反映させることができます。

マッピングとダイアグラミング でイノベーションを拡大

製品の開発、新しいシステムアーキテクチャーの設計、ビジネスプロセスやチームの組織図の刷新など、あらゆる場面でビジュアルコラボレーションとダイアグラム作成システムを使用するだけで、複雑なプロセス、システム、アイデア、アーキテクチャー、構造を設計しやすく、視覚化も可能になります。

クラウドインフラストラクチャー部門では、クラウドの視覚化とコスト計算のツールを切り替える際に起きる、アーキテクチャー開発とダイアグラム作成の調整作業がボトルネックとなっています。多くの組織ではシステム監査への対処が困難なため、複数のスプレッドシートを手動で追跡しています。

このような煩雑なクラウド環境管理に対処するための解決策があります。複雑なマッピングやダイアグラム作成ができる、AWSと連携したMiroのようなパワフルなビジュアルワークスペースを使えば、より効果的に設計、アイデア出し、イノベーションを行うことができます。なぜこれが効率化につながるのかというと、まず、クラウドインフラストラクチャーを設定するだけで、AWSコスト計算ツールがコストを自動的に算出します。さらに、クラウドインフラストラクチャーとコストが示された同じ共有ドキュメント内に他のコンテンツを埋め込むと、背景情報が深まり、意思決定をより早く、コラボレーションをより簡単にします。



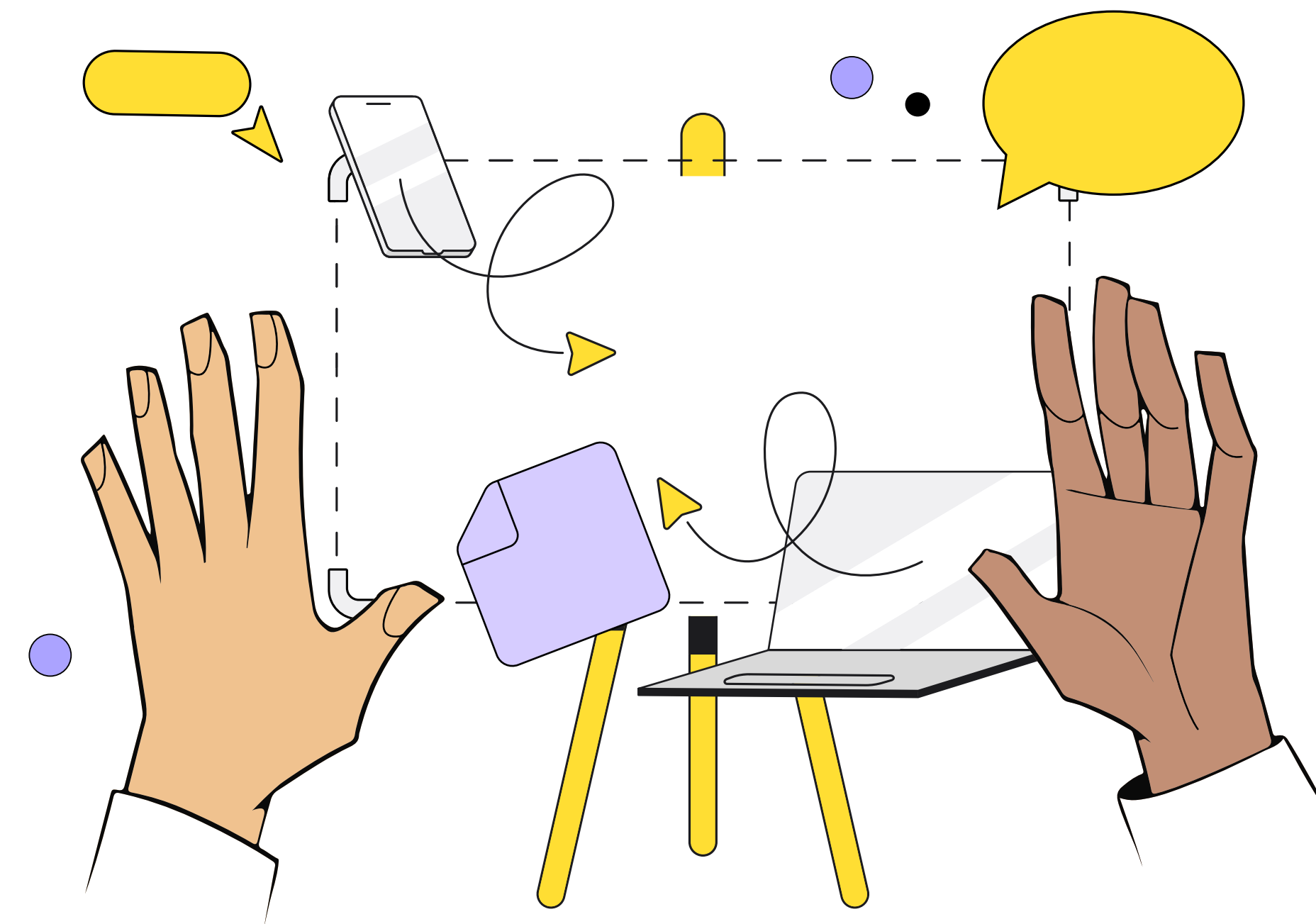
高度なダイアグラム作成ツールでアーキテクチャーを可視化するメリット

高度なマッピングと自動ダイアグラム作成を行い、複雑なアーキテクチャーやシステムを共同作業により構築、最適化できます。

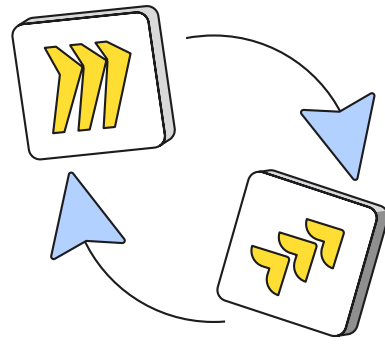
Miro の高度なマッピングとダイアグラム作成機能は、使いやすいユーザーインターフェイスが特徴です。製品の市場投入を目指す場合、[AWS 図形パック](#)と [AWS アーキテクチャ図テンプレート](#)のひな形を使えば簡単に作業を始めることができます。Miro アシストで、統一モデリング言語 (UML) シーケンス ダイアグラムなどの複雑なダイアグラムを描画したり、コンセプトを明確にするマインドマップを作成したり、また、システムプランニングにもすぐに取りかかることができます。

Miro には、以下のショートカットが組み込まれています。

- 作成物の共有、挿入、置換
- ダイアグラム作成のための修正提案とスマート推奨
- グリッド表示、グリッドへの位置合わせ、スマートガイド、オブジェクト寸法
- ダイアグラムのテーマ
- 重要な情報を強調するコールアウト表示
- 垂直および水平スィムレーン
- フローチャート、ビジネスプロセス モデル表記ダイアグラム (BPMN)、統一モデリング言語 (UML) ダイアグラムなどを含む、数百もの視覚的テンプレート
- AWS、Microsoft Azure、Cisco、Google Cloud、Kubernetes、VMware などの大規模なクラウドアーキテクチャー ダイアグラムを視覚化
- 自動マインドマップ作成とデータ解析
- 質問、アイデア、最新トピックでデータセットを拡張



また、製品管理者、クラウドアーキテクト、IT チーム、開発者は、[Talktrack](#) の録音やコメント追加、実用的な設定でコードブロックを作成し、関係者間で共有できます。また、[Lucidchart](#)、[Draw.io](#)、[Microsoft Visio](#) などのツールからダイアグラムをインポートすることも可能です。



一元化されたプロジェクト ハブを使って 全体像を把握、背景情報を共有し、 意思決定を改善

統一されたプロジェクト ハブは、すべての関連情報とコンテキストを 1 か所にまとめて、データを最新の状態に維持します。また、Looker、Tableau、Amplitude、Grafana Cloud のデータを統合したライブチャートとダッシュボードも作成できます。Figma や Adobe XD のモックアップ、UserTesting、Typeform の結果を追加して、リアルタイムのフィードバックを提供し、意思決定の足並みを揃えることもできます。

プロジェクトごとのハブにより、完了までの プロセスをスピードアップして成果を改善

AWS と連携した Miro で、プロジェクト管理を合理化しましょう。Miro カードをダイナミックなカンバンボードに追加し、フィボナッチや T シャツを使用した依存関係と工数見積りにより、課題とプランナーを視覚化して整理します。Miro は、Jira など人気のプロジェクト管理ツールやチケットシステムと連携して、よりシームレスなプロセスを促進。レガシーシステムの刷新とモダナイゼーションを実現し、プロジェクト移行に関する構想、プラン、実行をサポートします。

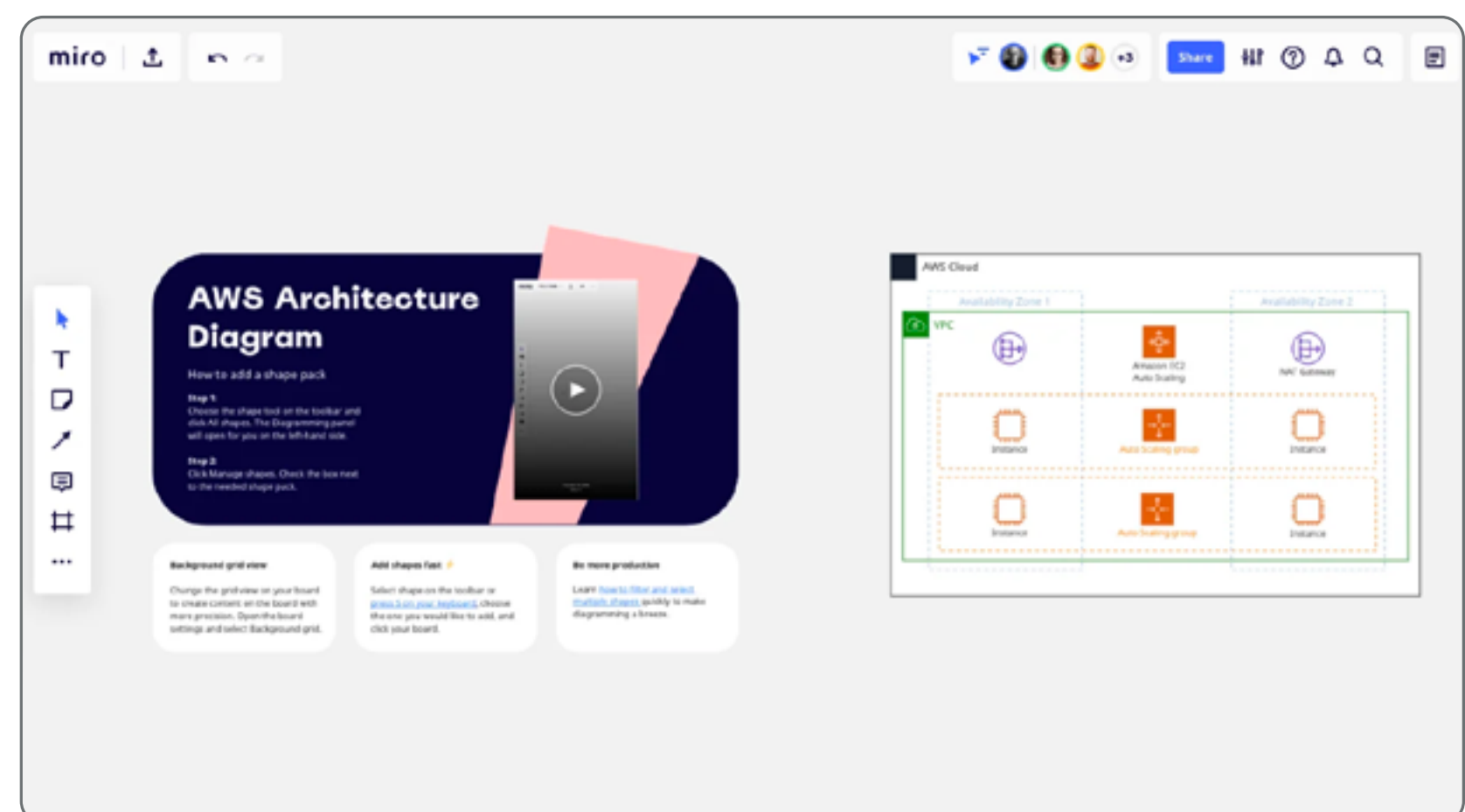


Miro for AWS でクラウド環境を可視化&最適化

コラボレーションの効果を高めるツールで、会社の生産性と収益に大きな変革をもたらします。

Miro は未来を形作るソフトウェア構築への取り組みが評価され、**2023 AWS CEE の年間最優秀独立系ソフトウェアベンダーパートナー賞**を受賞しました。Miro は ISV Accelerate で唯一のビジュアル コラボレーションベンダーであり、AWS Marketplace からすぐに検索できます。

コラボレーションとイノベーションに変革をもたらす Miro と AWS の活用法とは？



インフラストラクチャーのコストを見積もり、支出を最適化し、クラウドアーキテクチャーを改善

- [AWS Cost Calculator](#) アプリを使用して、クラウド インフラストラクチャーのコストを自動的に見積もり、支出を最適化します。
- [Miro の AWS アーキテクチャ図](#)を使用して、AWS アーキテクチャーの使用に関するベストプラクティスを確認できます。
- Miro で [AWS Well-Architected Tool](#) を使い、クラウドアーキテクチャーを評価して、拡張可能な製品デザインを実装します。

複雑な技術ダイアグラムを迅速に設計

- ビジネスプロセスを視覚的にマッピング。エンティティ関係 (ER) システムやクラウド アーキテクチャーなどの複雑で技術的な図を作成できます。
- [AWS 図形パック](#) と Miro のスマート ダイアグラム作成機能を使って、ダイナミックかつ折りたたみ可能なブランチ、高度なスタイル設定、自動配置を備えたフローチャートやダイアグラムを一から作成、またはインポートできます。

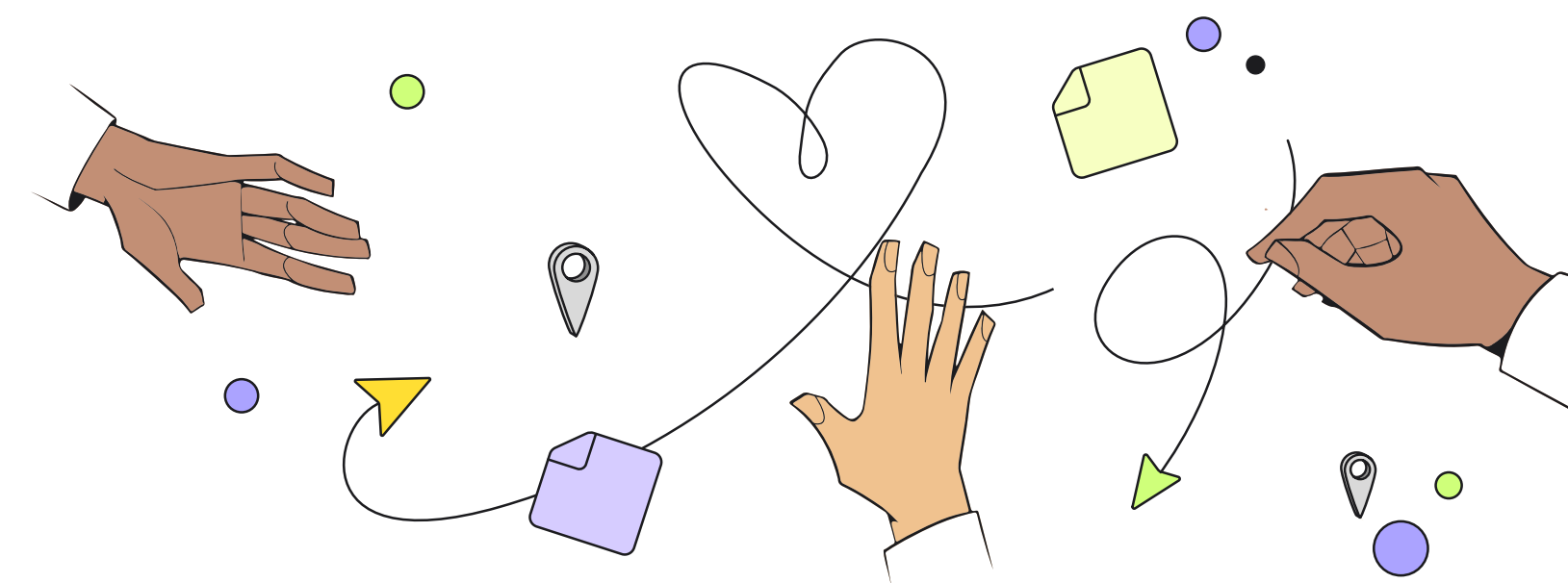
[Miro for AWS を試してみる](#)

プロセスとアイデアを視覚的にマッピング

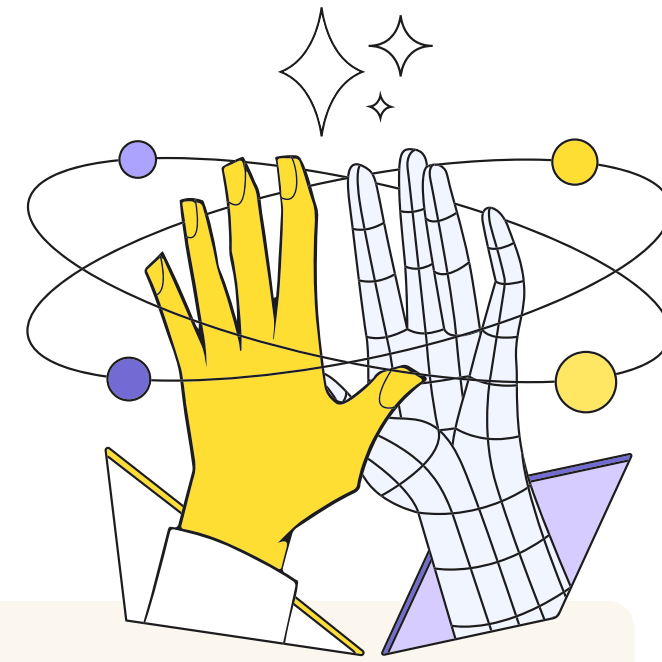
- 問題の特定と解決の初期段階で、アイデアや思考を整理し、思考プロセスを構造化して、他者とビジュアルを使って共有することができます。
- [Miro アシストの AI ツール](#)を利用して、マインドマップを自動的に展開し、新しいアイデアやコンセプトをスピーディーに拡張することができます

ツールとシステムを安全に統合しチームの生産性を向上

- [AWS AppFabric](#) を使って SaaS アプリを安全に接続し、タスク管理を自動化します。
- [Miro アシスト](#)を使用して、データから組織図を自動的に作成し、プレーンテキストから画像を生成します。



製品開発における AI 導入 と作業の自動化



AI は、製品の品質、柔軟性、カスタマイズを向上させながら、市場投入までの時間を短縮するための新しい製品開発フレームワークを可能にします。現在回答者の 35% が、AI を利用して仕事を簡素化・迅速化しています。

35%

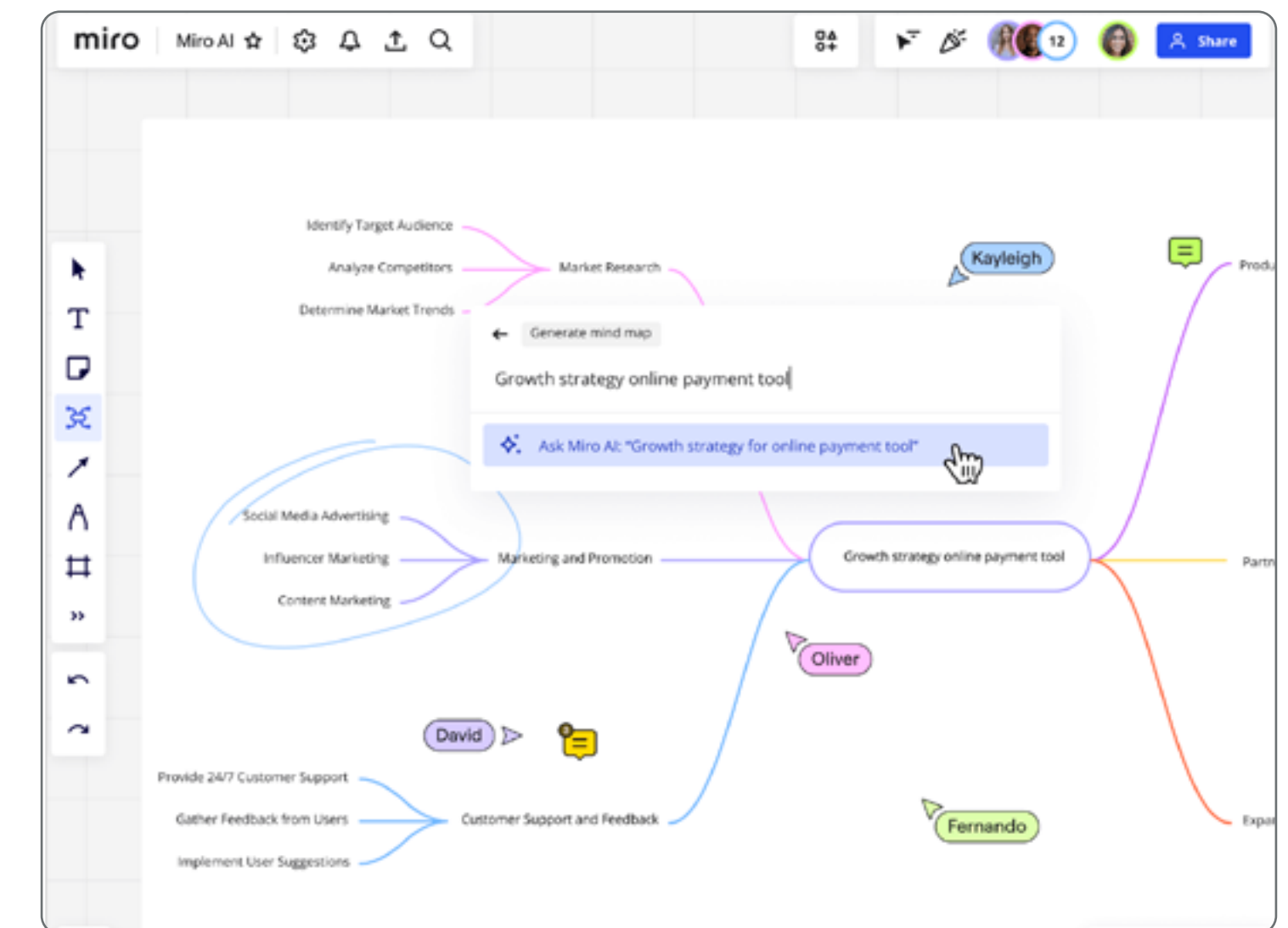
製品部門の 3 分の 1 以上が、製品開発プロセスで AI を使用していることになります。

Amazon Web Services (AWS) のスタートアップ企業担当シニアアドバイザーであり、AI の専門家であるディーパム・ミシュラ氏は、[AI と自動化が製品開発サイクルに与える 5 つの主な影響について](#)次のように述べています。

- 1 AI ツールにより、製品の市場への適合性を予測しやすくなる。より優れた、広範なデータ収集と分析によりその精度がさらに高まる事が予想される。
- 2 AI ツールは、イテレーションのスピードと市場投入までのトータル時間を大幅に改善する。
- 3 AI ツールは、お客様からのフィードバックの収集と分析の方法に変革をもたらす。
- 4 AI ツールは、従業員の研修プロセスをスピードアップし、ソフトウェアとの向き合い方に影響を与えることになる。
- 5 AI ツールがマニュアル作業を担当することで、人間は創造性を伴う作業に能力を発揮できるだろう。

製品開発者や設計者による AI の活用方法

生成 AI は、より効率的な製品分析をサポートし、製品の使いやすさを向上させるための推奨事項を継続的に提供、[新製品開発の構想段階を加速させる](#)でしょう。



AI と機械学習 (ML) を積極的に活用している企業の 61% が、「[完全に統合された製品ライフサイクル管理 \(PLM\) システム](#)」を導入しています。製品開発プロセスの各段階において AI ツールは、開発者や設計者が、タスクをより効率的に消化できるようサポートします。

Miro アシスト を使って製品開発を始動する方法

1 プロジェクトの初期段階の開発作業を加速します。

2 大きな製品や機能のアイデアを、複数のユーザー導入事例に自動的に細分化します。

3 受け入れ基準を作成するという面倒な作業を、ユーザー導入事例から即座に生成することで省くことができます。

4 テキストからコードを生成して AI に自然言語でコードを説明させることにより、開発工程を加速します。

5 Miro ボード上のデータを合成して、非構造化情報から、貴重な分析情報を引き出します。

6 ワークショップ、ふりかえり、顧客調査によって、トレンドを迅速に特定します。

7 付箋等を利用して情報を要約します。

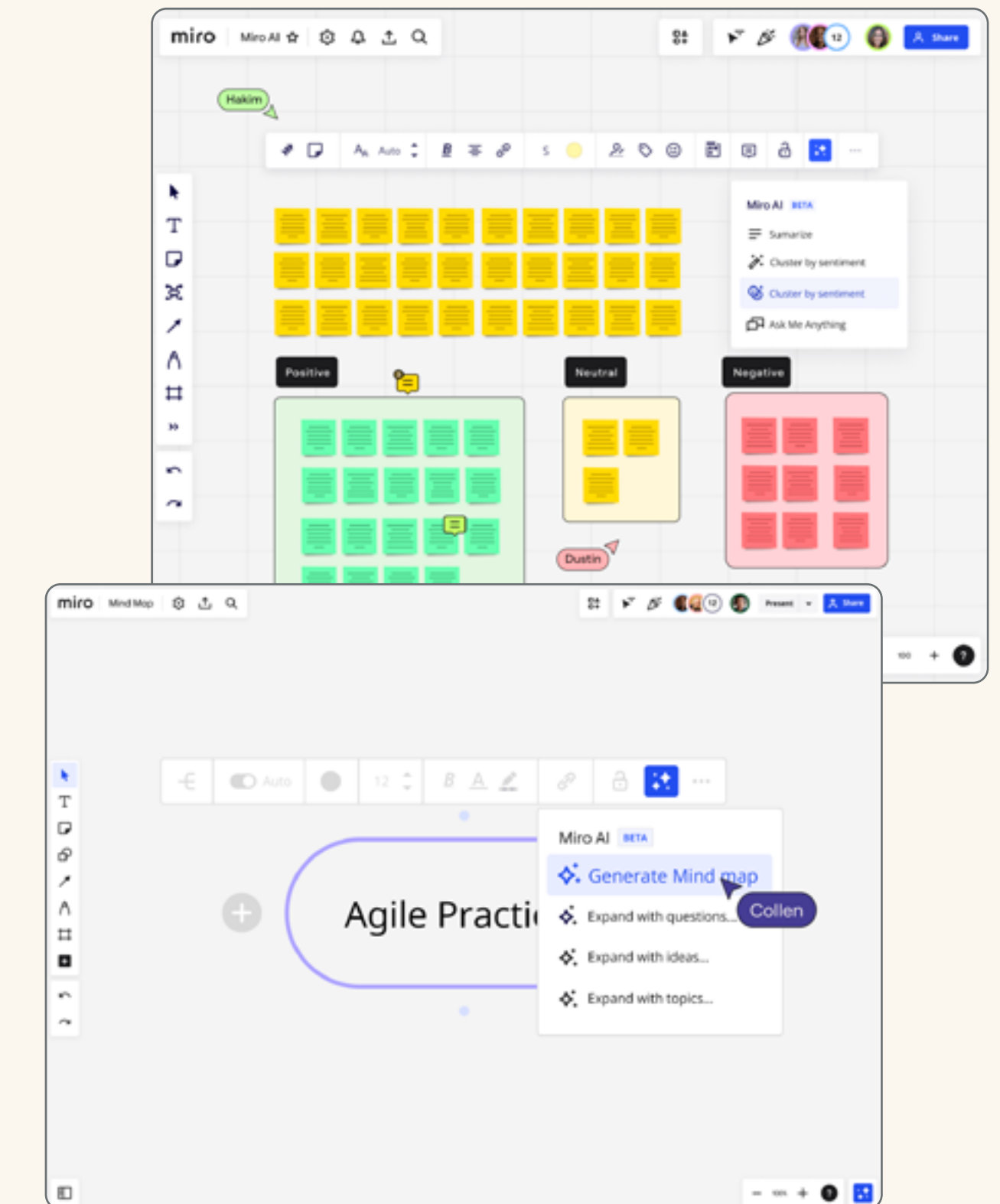
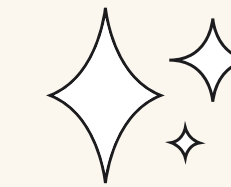
8 カスタムプロンプトを適用し、データセットから重要な分析情報を抽出します。例えば、「上位 3 つの問題点を挙げてください」「顧客調査で得られた有効な引用を 3 つ挙げてください」といったトピックに関する情報です。

9 感情やキーワード別に、付箋をグループ分けします。

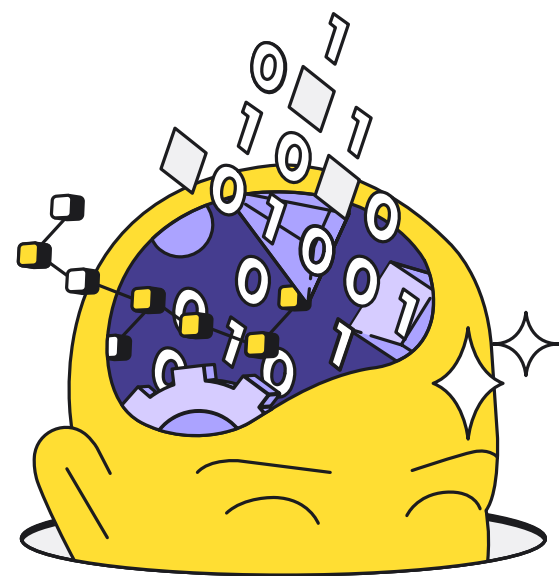
10 ダイアグラムやマインドマップなどの構造化モデルで情報を可視化。複雑なアイデア、システム、プロセスマッピングを簡単に説明できます。

11 UML シーケンス図を生成して、特定のプロセスまたは導入事例でオブジェクトまたはコンポーネント間の連続した相互作用を文書化します。

12 マインドマップを作成して、新しいアイデアや既存のトピックに関する知識の追究ができます。



[Miro アシスト を試してみる](#)



製品開発の未来とは？

AI は、製品開発環境にもたらされる変化の大きな要因であり、AI スキルを求める求人情報もすでに多く見られます。Monster には、7,800 件以上、LinkedIn には 3,400 件以上、Indeed には 4,200 件以上の製品開発関係の求人が掲載され、AI の専門知識が今必要とされていることがわかります。

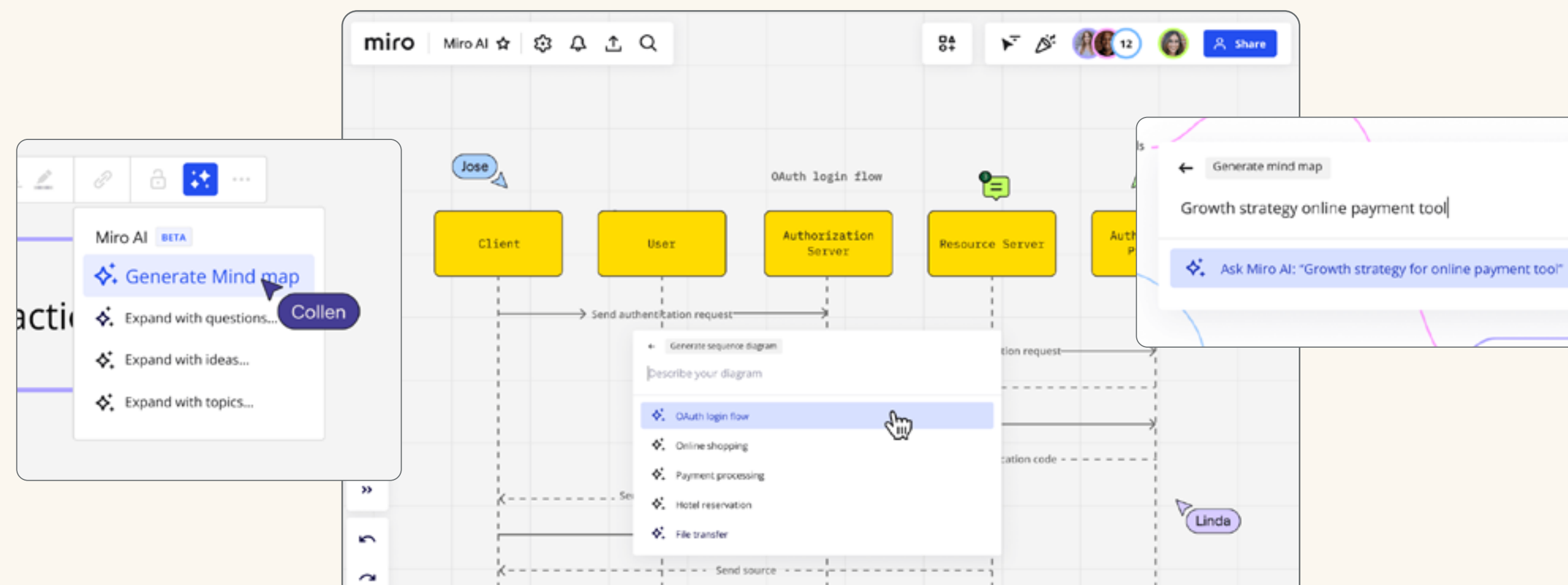
また、MMC Ventures によると、現在、10 社に 1 社が、チャットボット、プロセス最適化、不正分析システムを含む AI アプリケーションを 10 種類以上使用しているそうです。



より短期間で大きな成果に導く AI パートナー、Miro アシスト

AI パーソナル アシスタント Miro アシストで、製品開発のチャンスを拡大しましょう。データ合成や製品開発ワークフロー プランなど、時間のかかるタスクをスピードアップ。仕事を次の段階へと導きます。

Miro アシストを試してみる



製品開発分野の未来

製品開発における最も重要な変化の1つは、私たちの働き方はもう以前のように戻らないという点です。分散型の働き方は今後も続くことでしょう。その結果、ハイブリッドとリモート環境という製品部門の文化とコラボレーションに引き続き注力し、認識合わせのために有用となるツールに投資する必要があります。

90%

フルタイムでオフィス勤務に
復帰することを
希望しない従業員の割合

88%

ハイブリッドまたは完全な
リモートワークを希望すると
答えた従業員の割合



興味深いことに、ハイブリッド環境にある69%が理想的な職場環境で働いているのに対し、リモート環境では46%、完全オフィス勤務では、20%にとどまっています。

企業にとって、市場での製品の効果と成功を追跡することは重要ですが、同時に、社内や部門間でどれだけうまく連携できるかを追究していくこともまた重要です。現在、プロジェクト管理のフレームワークやツールが機能していないとお考えの場合は、新しいアプローチに移行するなど柔軟にその他の方法を検討してみてください。



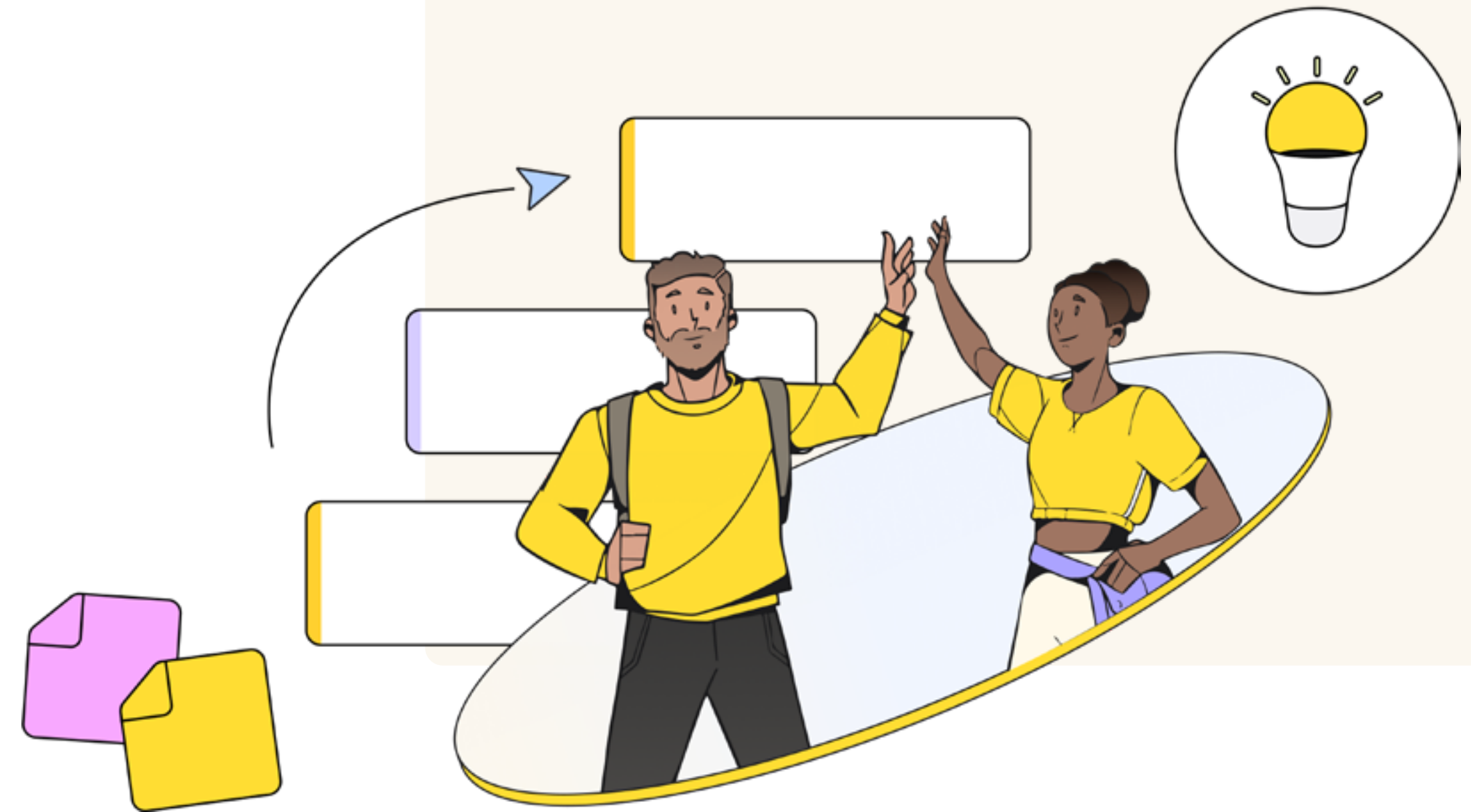
製品開発プロセスにおける視覚化の力(ROI)

部門横断的なコラボレーションが阻害されている場合、生産性の低下、社員の士気低下、収益の減少が見られます。分断された非効率的なプロセスは、生産性を24%低下させ、イノベーションの可能性を縮小します。

最近の調査では、回答者の42%が、不十分なビジネスプロセスの結果として社員の生産性が低下し、それが組織のサイロ化、不正確なデータ、作業プロセスへの弊害、製品の弱体化、サービスの低下、減益の一因になっていると指摘しています。

Miroのようなビジュアルプラットフォームに投資することで、製品部門は時間を節約でき、チーム間のコラボレーションを簡素化し、効率を高めることで組織により多くの収益をもたらすことができます。

Miroで製品開発チームの能力を最大限に引き出す方法について、詳しくはこちらをご覧ください。



「当社では、よりアジャイルかつオープンマインドになり、反復型プロセス、そして新しいアイデアとイノベーションを育むための専用スペースを、社員に提供したいと考えています。Miroはこうした取り組みを支援してくれる、最良のツールだと考えます。」



ブライアン・チッコテツリ氏
HP社、学習体験デザイナー



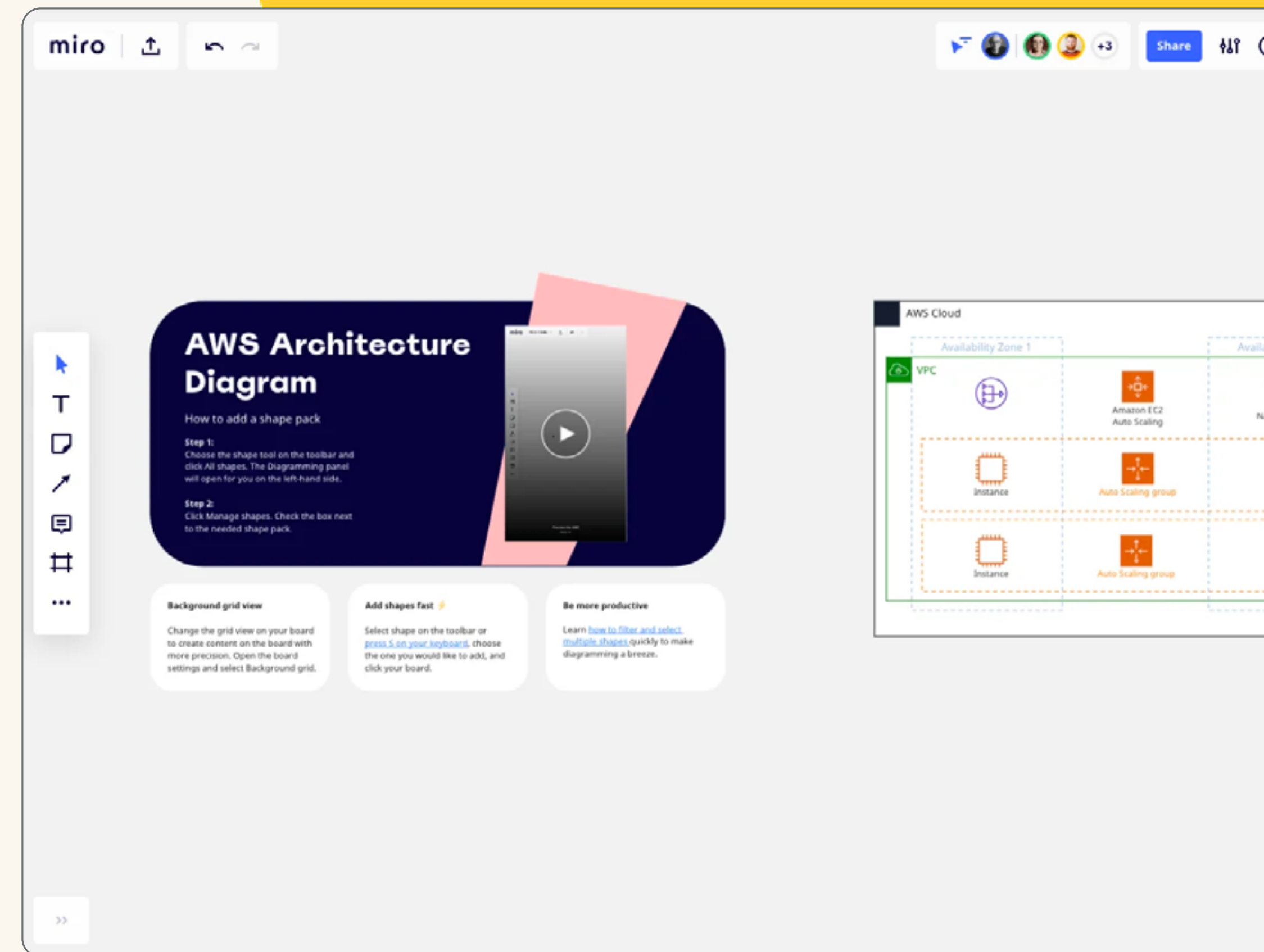
ビジュアルツールで世界を動かす次のイノベーションを実現

製品、設計、エンジニアリングの各チームを、1つのビジュアルワークスペースで連携させます。Miro for AWS は、新しい製品やサービスを生み出し、どこにいてもスピード感と影響力のあるイノベーションを成し遂げられるよう作られました。

製品計画ワークフローやワークショップ、非同期での共同作業、AWS クラウドアーキテクチャ設計などの複雑で視覚的な作業を、アイデアを実現できる直感的なツールにより、共有ワークスペースで解決します。

Miro for AWS は、Fortune 100 社の 99% が信頼しており、安全で直感的なアクセス管理ツール、堅牢なデータ保護機能、GDPR 準拠を実現しています。

無料で Miro for Business を試す





Miro について

サンフランシスコとアムステルダムに共同本社を置く Miro は、Fortune 100 社の 99% を含め、世界中 6000 万以上のユーザーが利用しています。2011 年に創業、現在では世界各国に 12 拠点、1,800 人以上の従業員を抱えています。

調査方法の説明

本報告書のデータ収集に際し、Miro は、2023 年 9 月に、1 ~ 5,000 人以上の従業員を擁する組織で、100 人の製品担当者を対象に調査を行いました。回答者は、製品マネージャー、設計者、エンジニア、CTO、その他製品部門に所属する担当者です。

この報告書は CXD Studio との提携により作成されました。

www.cxd.studio | hello@cxd.studio